



神奈垣  
象文編

現今支那事情

上

歴二  
上

支那事情

ル5  
8453  
1



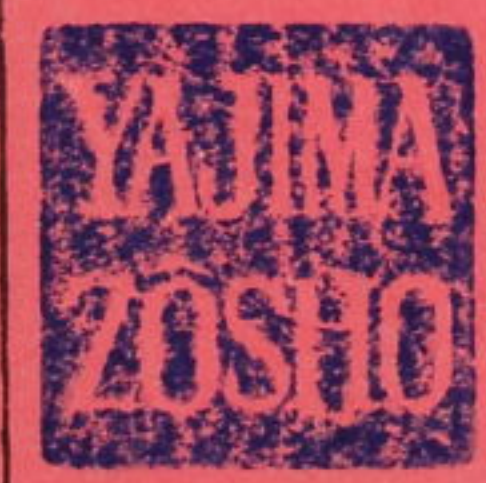
165  
8453  
1

神奈垣魯文編纂

# 現今支那事情

明治八年  
乙亥二月

櫻楓舎蔵版

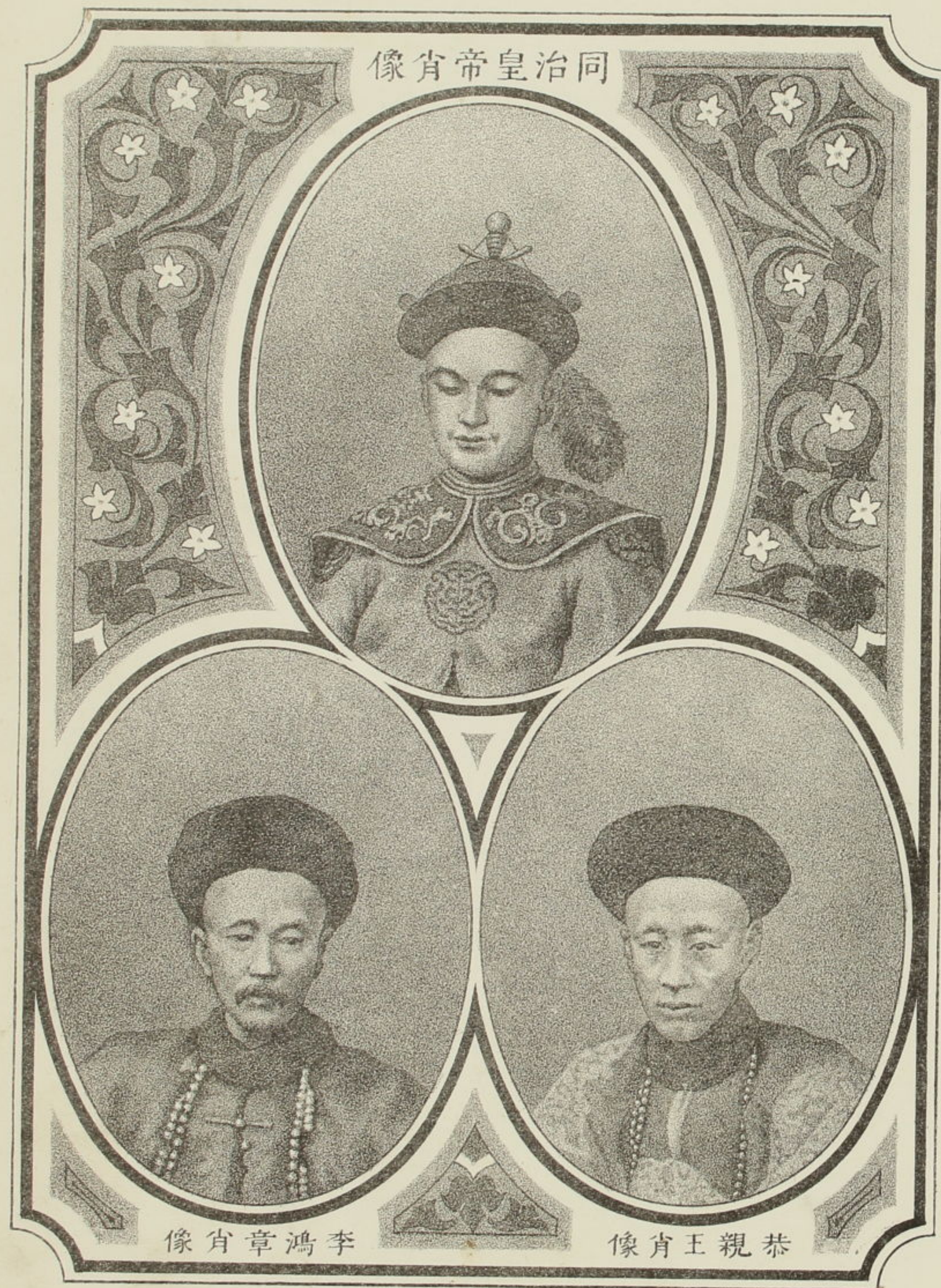


同治皇帝肖像

李鴻章肖像

恭親王肖像

彫刻會社製



同治皇帝肖像

李鴻章肖像

恭親王肖像

彫刻社會製

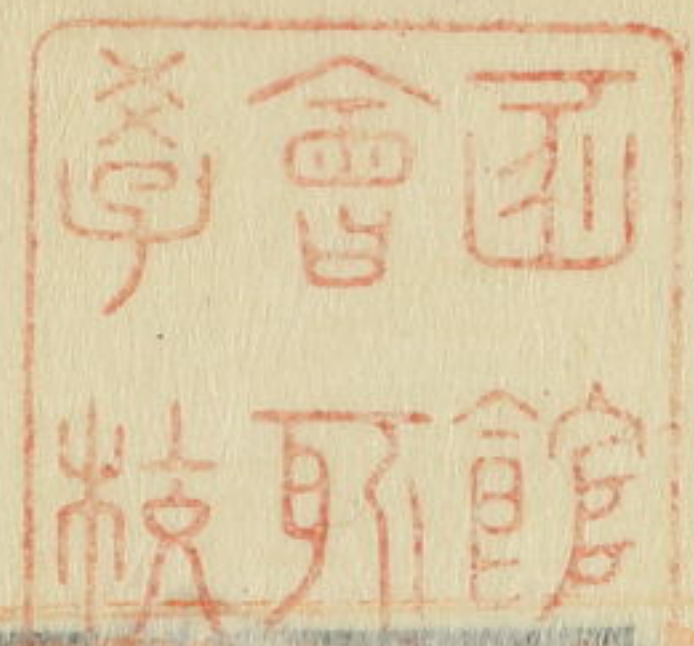
神奈垣魯文編纂

現今支那事情

明治八年  
乙亥二月

櫻楓舎蔵版





緒言

○支那ハ我邦接近の地と雖も原來鎖國の弊風  
 ありを以て貿易互市の今日小際も猶依然  
 とて他内地の通行を許さず是を以て我  
 俗彼の二京十八省の景狀其詳細を得る能  
 ざ偶舊圖に因り僅小位置幅員を辨知するも  
 滿清の輿圖に至つてハ茫乎として知る無  
 能清人の書を讀者と雖も地理又精し  
 況哉小民不於るを也是此俗書を編輯するの  
 謂ゆいて即今彼と事故既小和議あり小臨

支那事情

緒言

一

我小民の為に槩略を示すの意表ふるの  
 ○各省の下京師を去る何千何百何十里と記さ  
 るが如き皆以て支那里程にして原文の儘引  
 用せり然も共間々本邦の里數を翻算する者  
 なきありもあらず乍ハ更ハ日本里數云々と  
 添詞を置り一讀倉卒の際看者混淆する勿  
 也  
 ○該編休業日曜日或ハ夜間燈下ハ屬一諸圖說  
 中より鈔録する者重楮せるを以て漫ハ刊行  
 の念を生ず之ハ愚説を添附して世ハ流布せ

んとあらし者とあせり其間消光一週日ハ過ざ  
 るをりて誤脱毎丁抄一とせ然らずと校訂細  
 密ありんと欲せば其時好ハ後人を懼れ敢て  
 世の嗤笑を懸念せど是將際物の責止を得ざ  
 るハ出げ萬一具眼ハ觸るありハ識者の卓見  
 をもて宜く度外ハ措て問ざれ

横濱漁民  
 神奈垣魯文操觚

皇和紀元二千五百三十四年第十二月

天部百青 著言 二

書中

支那の

一 テールハ

我壹圓五十六錢

一 里ハ

我凡六丁

英の

一 インチ

我八分三厘六毛餘

一 ヤルド

我三尺餘

一 フート

我一尺餘

一 里

我十六丁半廿六間餘

支那事情目録

卷之上

國體風俗

支那の字義  
宗旨の奉信

人民の狀態  
文武の階級

軍務兵制

八旗の給俸  
軍卒の給俸

帝業政事

萬里長城

地理總説

十八省 直隸省

太清堡塔  
北京景況

天津景況  
歷代帝都

朱竹林

山東省

江蘇省

黃河  
鎮江

洋子江  
南京

上海景況

浙江省

寧波

福建省

福州  
廈門

台灣

廣東省

廣東  
香港

瓊南

山西府

陝西省

河南省	安徽省	江西省	九江
湖南省	湖北省	漢口	貴州省
廣西省	甘肅省	四川省	雲南省

卷之下

近未擾亂

阿片烟爭亂

廣東爭亂

千八百四十八年亂

同五十三年亂

同五十七年亂

同五十九年亂

同六十年亂

長毛賊亂

支那事情目錄終

大臣



官



貴婦人



將軍



兵卒



同







農民



商人



平民婦



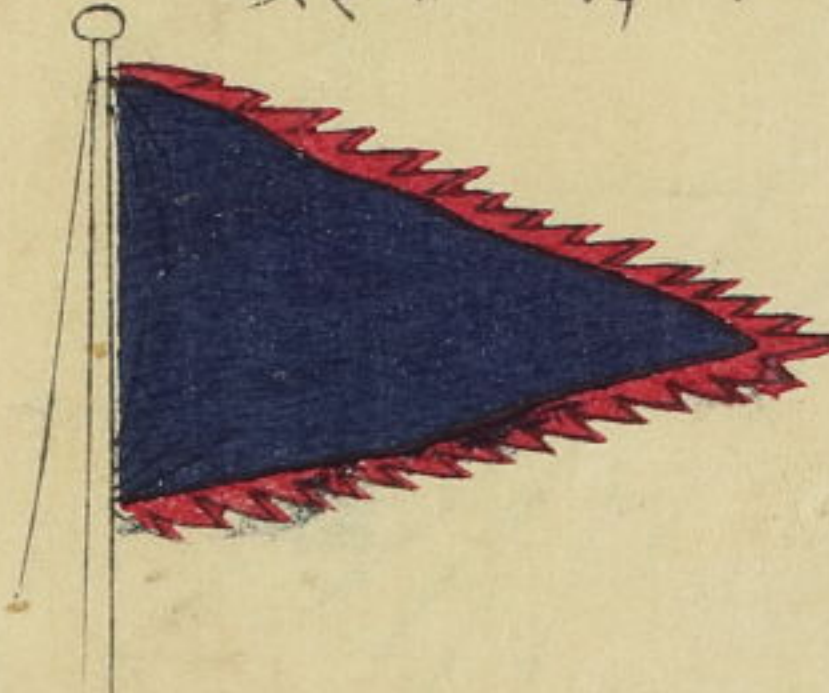
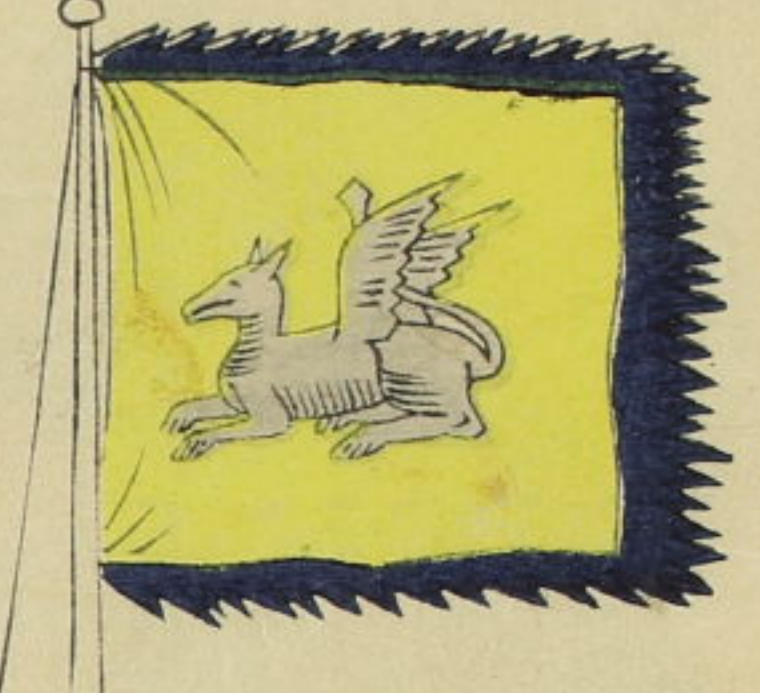
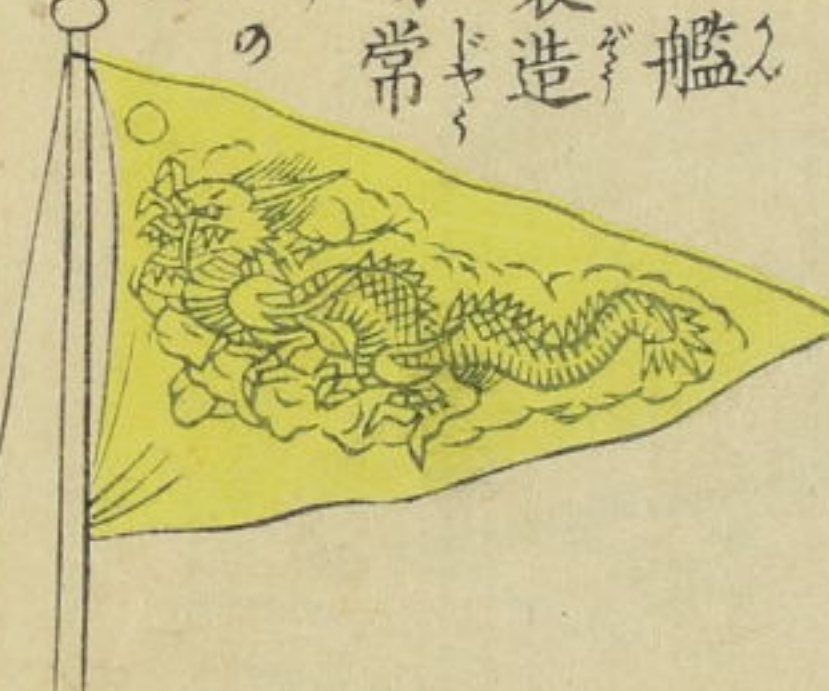
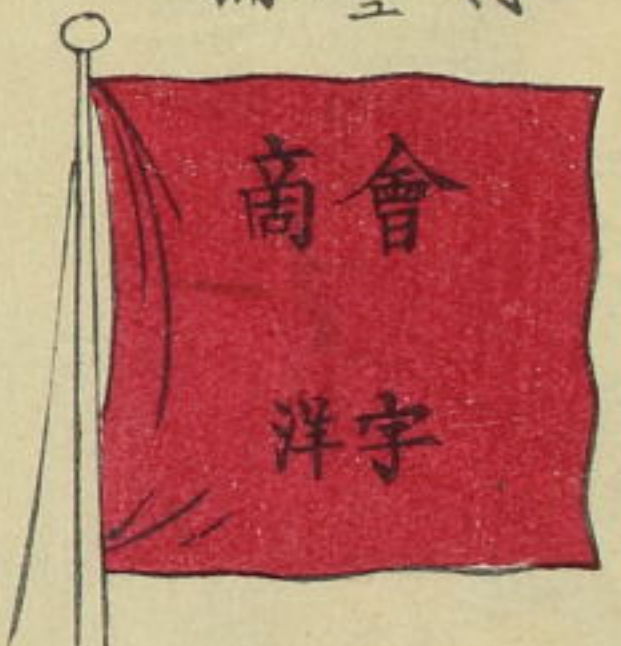


豪家婦



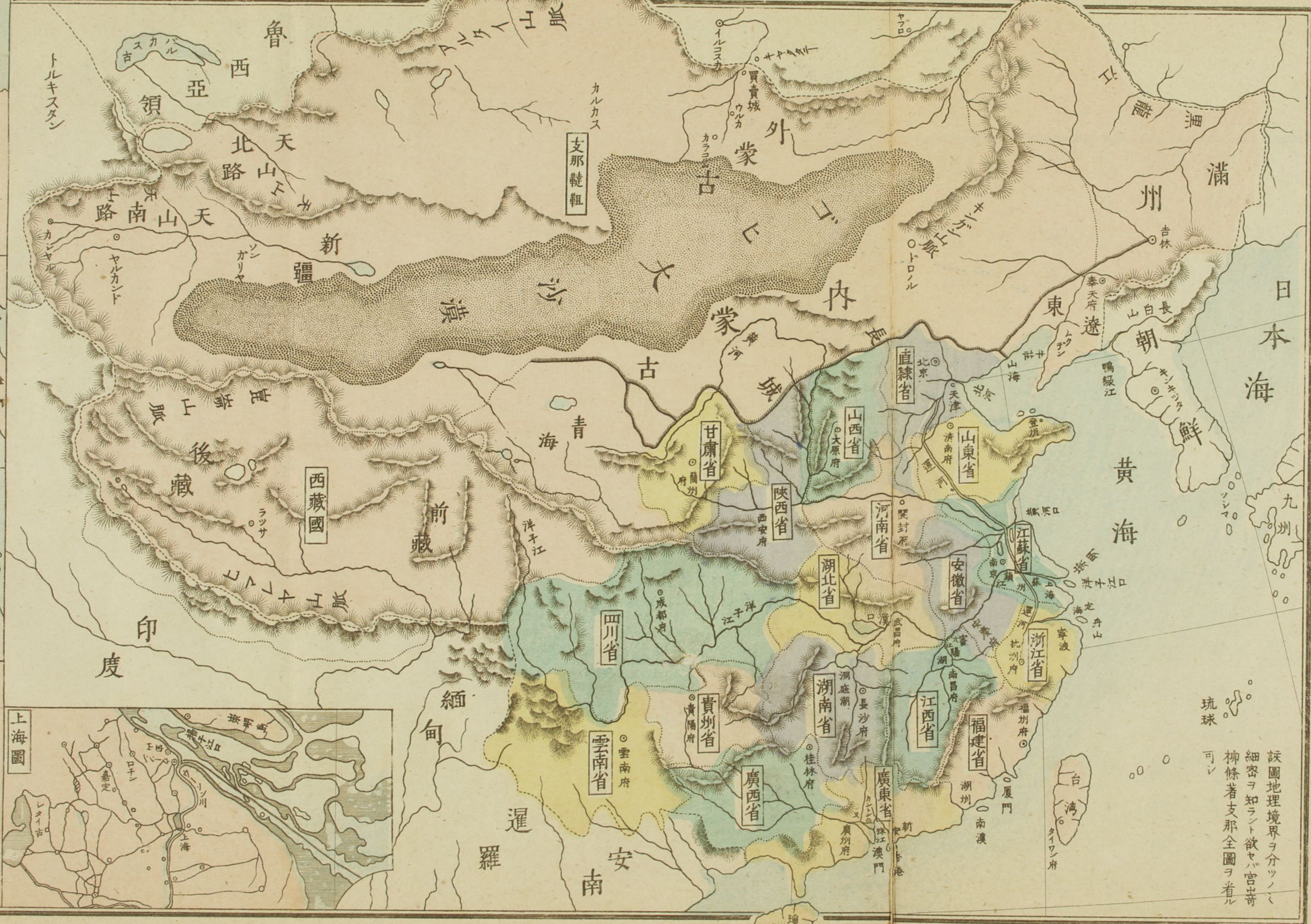


該圖地理境界ヲ分ツノ  
 細密ヲ知ラント欲セハ宮崎  
 柳條著支那全圖ヲ看ル  
 可シ

支那國軍艦及商船旗章

<p>旗 商 船 同</p> 	<p>旗 國 那 支</p> 
<p>旗 用 場 製 軍 艦 常 造 艦</p> 	<p>標 盜 同 二 蒸 場 造 船 捕 用 氣</p> 
<p>用 船 蒸 局 運 潛 二 氣</p> 	<p>用 二 標 盜 捕 洋 海 漢 字 洋 字</p> 

支那全圖



該圖地理境界ヲ分ツノ  
細密ヲ知ラント欲セバ宮中  
柳條著支那全圖ヲ看ル  
可シ



支那全圖



該圖地理境界ヲ分ツノ  
細密ヲ知ラント欲セハ宮出寄  
柳條著支那全圖ヲ着ル  
可シ

福州總圖

廈門圖

寧波府圖

廣東及香港圖

上海圖

現今支那事情卷之上

横濱 神奈垣魯文鈔輯

國體風俗

支那ハ從來の本部二京十八省及び現今塞外の  
 地方長城以て東北西南の地方を合せ其版圖小  
 属する所を總括する小亜細亞大洲三分の一を  
 領し歐羅巴全洲の一倍半を保ち地球中魯西亞  
 小次ぐの大國あり然も人口ハ猶之小二倍一  
 九四億零四百六十万 或ハ五億三千其境界北ハ

西比利亞アムステルダム接東南ハルビン日本海支那海小濱ハルビン南  
印度海マダガスカル西獨立マダガスカル鞞マダガスカル鞞マダガスカルトイタルマダガスカルパンマダガスカルリマダガスカルンマダガスカルテマダガスカルンマダガスカル小境マダガスカルを  
其表面九十万零五千四百八十方里あり其國號  
の如き國帝の革命毎小必改稱あり所謂夏殷  
周秦漢蜀魏晉齊梁陳隋唐宋宗金遼元明清現今國  
清ト皆以て國字たり其字義の因て來る所帝祖  
故里の地名を以て號け或ハ近來善字を選び  
當代の國號とせし間々あり國人自誇して中  
華中夏中國或ハ神州ふど稱せり其中と稱する  
ハ坤輿中心ノ國と云る義ふして我國ハてハモ

口コレと訓ト義諸越リ又漢土唐國唐山唐土とも  
書せり且カラと訓ぎるハ我彼の義ハれハ都て  
彼國ノ諸外國の轉語あれども隣國接近の地ハる  
を以て支那を指て多くカラと呼び來れるハり  
然れ共目今ハ支那と呼べり村夫野夫牧童ノ支  
ト俗稱セルハ從前彼ノ土南京支  
地方ノ者船来多キヲ以テナリ  
支那の字義山村昌永の説と安積良齋の文略  
とを纂輯ハるハ彼の土西洋人呼ハでハナ又チ  
ナと云ふ舊譯支那又震且小作ハる是印度の佛  
法を翻譯ハせる書不出ハ即チ唐土ハり西方

支那事情 卷之二 二

の諸國古來稱する所あり華嚴音義小云く支那此不思惟と云ふ此國人思惟計作する所多きを以て故小之を名とせと又艾氏圖說小曰其大西洋を距る路幾九万開闢未始相通せむ但し海外傳聞之を尊稱して大知納とせ知納ハ亦是シテの音譯ありと又再按小ヨハンニ一ウホウ人蘭所著の奉使支那行程記小曰此國を支那と稱することハ昔歐羅巴中興革命の時より二百五十年前此國中一の國王シニ一名ナンある者此國を一統して之を治め其域

德隆盛みして他の諸鄰國小振へり故小印度小之を傳聞し此國を呼べシナと云ふ其後此國小於て歴世沿革ある毎小其國號を改新せと雖も印度及び我歐羅巴諸國小於てハ今小至てシナと云ふと云々總て地名等の語尾小アの音を添ふハ西國の語法なれば秦の音シンの尻ハアの音を加へてシニア則ちシナとありし成らん佛蘭西小てハシノアと呼び荷蘭小てハチイナと云ハ英吉利小てハチヤイナと云ふも原同音小して其國々の訛り小依



り少一づの變りありあはる人但一魯西亜ふ  
てケタイスケと號するの契丹といふ轉語ふ  
る然然ればシナ又チナと云者の秦の始皇の  
名高きより出て秦の音の轉訛あることと明瞭  
ふして我邦今も於て此國を漢又唐と書し稱  
するの類ひあり蓋し華嚴音義不謂ふ所の如  
きの佛法此國も入て後此國の佛者附會せ  
るの説あはる人一ふ震旦と云ふもシナの訛語  
と知られたり又或人支那字義ふ云予曾て一  
老僧ふ聞しことあり支那の梵語にて文華或

ひの文國とも云ふ可き義あり蓋し該土の文  
物風も開け其開化洽く四隣も波及せしより  
印土人も之を文華の國則ち支那と呼びし  
とん因て案ぶる小彼の「ダガマ」が喜望峰を廻  
り印度も往來する數百里其土人の談話も此  
東北も當り支那と云ふ大國ありと聞き及び  
るも亦久しかり可し是支那の名の歐土も  
傳りたりたる権輿あらん歟と此説前の華嚴音  
義の等類といふ可し  
人種の蒙古種もして身軀長大あはる其面平廣

鼻低くして頬骨秀で肌膚黄土色を帯ぶ氣質  
 温和にして善く勞小堪也漠北韃靼の人種の風  
 俗氣象地方小從以各々小異有然れ共素皆同  
 種の者と夫男子の貴賤と亦皆頭髮を剃去し  
 頂上小少許遺して辮髮頭ノ毛ヲホニテカ背後  
 小垂れ貴き者ハ爪を蓄へ寸餘の長さ小至ら志  
 む女子ハ足の小あを貴と少きより之を禁  
 著て大あしめむ其形ち馬の蹄ふ似て殆ど歩  
 行も可くしむ  
 國民ハ耕作蠶桑販賣漁樵の業を勉め殊小文學

を貴重し講習して怠ら且風俗古へり禮讓  
 を重むと雖も數千年來君主專治の苛政小基  
 民情一般小詭詐狡黠ハして頑固の俗を小刑  
 法酷烈ふれども罪人隨つて多く又古へを貴  
 今を賤し自ら尊大小して外國を蔑視侮謾の弊  
 習あり  
 國帝を天子と稱し政府の主宰として其權除涯  
 なく政令法度皆民と咨謀せしめて之を獨斷特裁  
 せりニと我國維新前舊幕府政の如し其下百官  
 を備具四名の大内二人必ス満及び四十餘名

の參政官ありて諸務を分司し又貴重の學士ありて政令當否を監察せり  
 國內の兵備ハ韃靼地方の屯兵を除くの外總數九八十五萬九千ありて之を四部ハ大別して其中滿州人及び蒙古人の隊を以て精兵と云其他海軍河軍等許多ありて兵制器械船艦等近頃漸然と覺る所ありて固有の舊法を措て歐羅巴諸國ハ之を購求ふ者ありと  
 全國の取額大半米穀を用ふと雖も之を貨幣として算する時ハ一歳の總數三億零九百二十七

萬弗小下少也

此州ハてハ五穀殊小米を其性命と云を以て田圃の制度甚ど嚴密あり故ハ是を區分せると亦甚ど精微あり大約農民ハ其實の十分一を官家ハ上納せりと云ふ若之を納れざればあれハ村吏其農民を放逐せ若其歲時令不順ふして禾苗ハ蝗蟲を生ト枝葉を侵蝕し其地方之ガ為ハ飢饉ハ及ぶ様の事あれハ法度ありて是ま毎年年々貯へ置たる穀庫を開きて其飢死を救む來秋米實の升るを待と一む然れ

ども縣令村吏常小私慾多くして竊小其穀庫  
 を開て己れの産とふし其金ふて高官を得る  
 者多し斯の如き習俗也名秋穀實らざる時ハ  
 農民大に擾亂を起し他縣不至りて人家を掠  
 略する者多し邦人之を流賊と云ふ  
 邦人奉信する宗旨多しハ佛教あり其神として  
 貴ぶ像を見る小頭ハ美女ハして下體ハ蟒蛇或  
 ハ首ハ常人小似て其腹肚鼓脹宛も水腫病の如  
 く或ハ其頭太ど長大ハして下體ハ常人の如き  
 もあり其甚しきハ至りて神像ハ龍狗を合體と

其其他異像枚擧可なりハ邦人斯の如き殘廢  
 の醜體と寺院の中央小列置して敬信すること  
 印度人小殊あることあり  
 喇嘛教ハ西藏國の神あり一菩薩一軀三頭醜  
 態見ると堪へば然る又此菩薩能く男女の大  
 倫を守護せるとして世間多少の石婦盡く之れ  
 又祈念を掛け以て嬰兒を胎内ハ宿さんてを  
 請ひ來詣するハの殆んど虚日希と云  
 回々教ハ亦北京城内ハ於て甚ど盛あり其之  
 を信するもの蓋し賤民ハ非らば其禮拜堂の

數喇嘛教のものに比すれば稍減少すと雖城内に在るを以て榮譽とせり已不支那帝も亦此門徒とありと  
儲此門徒議定又於て右手を前面に推し出さ  
を以て常と英萬一此事を速く為さんと云  
時ハ獨り大指を立てて以て其門徒多るを通  
ぢる也然れども土人若し其誠實あるを他  
人又示さんと云る時亦此暗號を用也と云又  
其暗號又先づ天を指し次は地を指し次は其  
胸部を指し最後は又大指を立てて交通の標と

為らあり蓋し天地を指して其心中偽らなく正  
直信義あるを誓ふの義あり官嘗て布告して  
曰く此暗號ハ古より我國に於て其正直信義  
を互に通じ時之れを用たり即ち規矩會是  
あり  
支那人ハ此國を行つて所の三教即ち儒教  
道教佛教の内必を其一教を奉せざるべし  
以而して各教の人互に京城の内外に在る所  
の是等の殿堂又参詣し幾んど相隔らず但し  
右の如きを以て人々の必意確然として適歸

其の如く甚混亂を免かれ、若概、人々各教  
 を連て奉信、試見、凡そ孔子の道を  
 脩むるものと雖、亦佛陀に奉ずる所の木偶石  
 像を禮拜し、又香を焚き、又花を供じ、又田夫水  
 手の如きに至りて、其職業を守護する所醜態  
 悪む可きの偶像、日夜怠り、多く經文を念む  
 るも、又更ニ孔子の神牌を拜じ、其心意の一  
 又歸せざるを實ニ疑ふ可し  
 此說歐羅巴人躬自ら其疆不到り、其人物を評  
 するの譯不出、以耻可き哉、我邦の愚俗、古く印

度の野教を傳へ、深く賣僧の妄語、小溺、進歩  
 の當世、不於るも依然として、猶偶像異體を奉  
 信、其支那頑民、小比、可き者、宇賀神  
 頭、首人、面ニル者、聖天、頭首、白象、ニシテ、人、形、十  
 下、卦、小、蛇、ナル者、聖天、頭首、白象、ニシテ、人、形、十  
 ナ、を、崇、敬、一、て、冥、福、を、祈、る、小、寒、水、小、沐、浴、一  
 斷、食、數、日、不、及、者、あり、今、回、支、那、と、和、議、あり  
 若、成、ら、む、ん、本、國、人、民、振、つ、て、彼、小、捷、ん、と、欲  
 る、の、剛、氣、何、ぞ、浮、屠、氏、の、弱、說、小、固、着、一、天、賦、の  
 自、國、神、靈、を、祀、る、や、乞、ふ、我、衆、庶、該、說、小、因、て、偶  
 像、異、體、の、信、あ、る、を、證、し、悉、皆、廢、棄、せ、ん、こ

しを嗚呼支那の往古其鬼小あふて是を  
 祀るハ深く世教ハ誠ある所あるをや  
 國制文を上と武を下とせり武官ハ高位  
 の人と雖徒歩せざるあり然るも文官ハ至りてハ  
 中等以上四人小一て擔ふ輿小乘らざれば大  
 小耻辱の事とせり蓋一在官の者あざれば肩  
 輿を許さざると雖乘馬ハ一般の準許あり  
 文武位階の區別外見せざる所明瞭あざれば唯圓錐  
 狀の帽子の尖ハ附たる球の色を以て僅ハ區分  
 せ可きのミ其色ハ赤淡碧濃碧水晶白石黃金等

あり之を九品階小分つ小九色を以て又帽尖  
 球を添ふる者ハ禮服ハ鳥類其他の形狀をなす  
 繡帛を領より垂れて胸背を掩ふ者を被て又其  
 上ハ大なる珠數の如き者を胸部ハ懸く是の如  
 き外飾亦大金ハ購ふべし故小之を以て一概  
 小其人の位階を表すハ不足らざるあり假令商  
 買と雖出金するハ其ハ碧球を冠るの許可あれ  
 其事小臨してハ毫も碧球の力を籍る能ハ官  
 府の待遇無球の平民と異なることありと云  
 全國縣令の數凡一万四千八ありと云ハ其縣

令たる者必は他の縣下の人ある可く又其治下の人民と交通朋黨を防ぐんが為縣治の期限ありて永く一地を治りしめば又其親籍子弟を同縣治の下奉職するを許さば三年ふ一度宛一道監督の大官制台其管下の縣令及び諸司の姓名簿と銘々の行狀人物書を添へ自ら齎して内閣閣に到り大臣大臣に上申す此閣於て大黜陟あり又貴官の治績を督檢するが為特命を受たる大官諸方を巡行するあり若管下土寇騷亂等起るあれば其縣令必ず譴責を免るる能はば

軍務兵制

支那の軍士盡く北京兵部の所轄たり而して政府の依頼する將士兵卒皆韃靼人あり故韃靼韃靼人を以て親兵親兵とふし之を精兵と稱す所謂滿州兵兵ある者あり蓋し兵制を八旗八旗に分ち其軍旗ハ黄白赤碧を用ひ其緑ハ四色の他の色を以て圍圍たり一旅の軍士各一万人総て八万の兵率ハ政府之に依て其國家の保護不充る所ありて又別別十八省毎小韃兵を配置せり支那本國兵士の軍旗ハ綠色を用ふ尚地方小民兵を備へた



う然れ共斯民兵の如きは盡く不練未熟の群徒  
 小して軍装最も盤襪を纏ひ外見堪や可うらざ  
 る者小似たり抑支那近時の兵卒ハ軍事小疎く  
 膽力乏しく且支那人の性質微弱小して奮勇の  
 激發あく彼の精兵と稱ある韃韃人ト漸々恭平  
 不安居して往日勇猛の念稍く消滅し支那怯懦  
 の風俗小深き目今小到りてハ殆ど支那本國の  
 人と伯仲ある不到れり  
 支那軍卒の名を以給俸を受る者八十五万人小  
 下らび之を區分せられハ韃兵六百七十八隊蒙古

兵二百十一隊支那本國及び民兵を併せて一万  
 二千入あり又韃韃兵と支那本國兵との俸給一  
 様ありハ韃兵ハ步兵と雖飲食を給する上月  
 毎ニテール六錢ニ當ルを與へ一日我十錢餘小  
 當る小支那本國の兵卒ハ唯月給一テール六分  
 を與へ一日纔小我九錢小足らざる内より自ら  
 ら飲食をふせり斯奉給小差異あること原來韃  
 人の遠く郷里を離れて内地小來りて常備兵と  
 あり他小營業の術あり支那本國人ハ練兵時期  
 の外ハ自己勝手の業を營之利を得可き小より

政府の信任する所自國（カタ）云々小ありて支那本  
 國の人民小ありて故不斯く自國人を恩惠（おんゑい）し支  
 那人を賤（せん）するの所置をあせるあり  
 兵卒ハ上小碧地（あせち）小赤縁（あせり）を取り或ハ赤地（あせち）小白縁（あせり）  
 を取りたるジャケツトを被て下小碧袴（あせはかま）を穿ち  
 頭小着色の藤或ハ竹を以て製（せい）したる圓錐狀の  
 帽を戴き其帽形ハ打撲（ぶつ）を禦（まも）く不適（ふさわ）へり然（しか）共  
 兵卒小して文官（ぶんくわん）の帽其球（たま）を備へざる者（もの）を冠（かん）る  
 者あり又羽毛綿（うもわたん）等を包入たる夜被（よまき）の如き長衣  
 を釦子（ボタン）小ある軍裝（ぐんさう）の兵卒（へいそ）もあり其胄（むすこ）ハ鉄（てつ）を

以て漏子形（ろうしぎょう）小製（せい）し其頂（てい）小球（きゅう）あり此球（このきゅう）ハ繭糸（まゆいと）或  
 ハ馬尾（うまのび）一把（いっば）を綁着（わまひつ）たり又騎兵（きへい）の重器（じゅうき）ハ弓矢（きゅうや）小  
 り弓ハ弾力強（だんりきつやう）き木小角（つる）を雜（まじ）へて製（せい）し弦（つる）ハ繭糸  
 を善（よ）く紡（紡）拵（つくり）て製（せい）し弓力を量（はか）るの法（ほう）ハ弓を曲（まが）る  
 力の多少小由て定（さだ）む其力ハ九貫六百目（きゅうくわんろくひゃくめ）より十  
 四貫三百目位（じゅうしくわんさんひゃくめ）位（ばい）小至（いた）るを度（ど）と（し）其刀劍（たうけん）ハ鈍（どん）  
 小して利（り）ありて國人（こくにん）其在來（そのこゝろ）の火繩銃（かじょうじゆう）ハ其利（そのり）弓  
 矢（や）小劣（せう）れるを唱（な）ふ蓋（かき）ハ外見製造（がいけんせいぞう）共小武（ぶ）りり（り）に  
 疎（そ）あるを以てあり又籐（とう）を螺旋（くわん）て製（せい）したる楯（たて）を  
 荷（か）ふ者あり

支那ハ原來火藥製造の祖ナリて發明最も古  
 諸州ハ先驅て其方法を解し得たるも大砲  
 を用ゆるハ至りてハ近代キテ曾て知らざる  
 所あり明朝天啓元年我元和西洋十年六澳門嶋  
 不在葡葡萄牙人ナリ砲兵共共ハ三門の大砲  
 を求め以て鞏人を禦グめたることあり爾  
 後十七年を経て明の崇禎九年我寛永三年滿州兵  
 の為ハ苦めらる一時期明人其國內不在耶耶蘇  
 宗人種ハ乞ふて大砲を製造せしめたり又フ  
 エルシナンドラエルビスト教宗ノ一人ハ千六

百年代ノ末ハ於て清朝康熙帝の為ハ數百の  
 大砲を製造したりと云  
 大將ハ之をシンクン即大將と稱ハ一シンクン  
 廣東省ハ在り常備兵の將此職ハ陞る者ハ  
 必以鞏人ハハ一て支那本國の人シンクンたるを  
 得但但一其次官ハ本國人も到ることを得る者  
 あり其下ハ屬する將士ハ膂力あり弓術ハ巧ミ  
 不土寇を平げ軍功ありたる者上位ハ在ること  
 を得可キきあり  
 支那の制度総て出る所最負偏頗最負偏頗の所置のこ

みて公平ありて人心の進ずざる復惟ふ可し

帝業政事

皇帝の位は必じ血統の男子を選きて其後を受つ嗣む但し其太子と定むる者ハ生年の前後ハ據のこみありて又關州兵馬生殺の權ハ皆皇帝の掌握中あり帝行ハ皇天不則りて幾微も偏倚のことありと云へり然れども其行幸のこは路傍不在之ハ敬跪匍伏せざる者ハ皆擒へて死刑ハ處し少も假借愛憐定ることあり是亞細亞人の殺代ある通弊あり

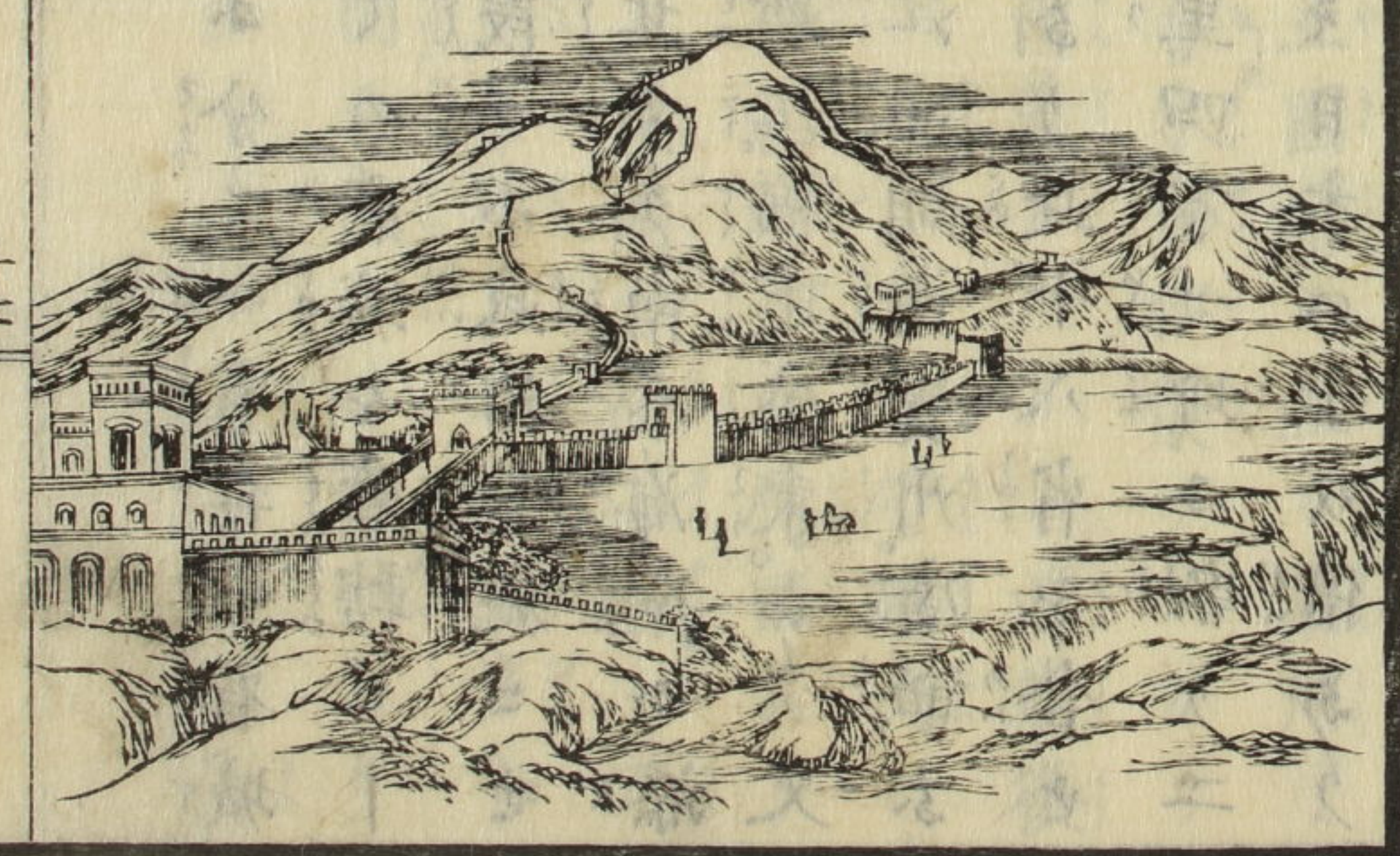
我邦舊幕執政の時大樹偶々野狩道遙を催さるることあり之を御成と稱し鹵簿關扉を鎖し行街戸門を閉て數時往復を許さず戸前之を拜せざる者低頭平身過りて垣間見或ハ起身歩行せざる者あり不到てハ忽地捕縛して嚴科不處し又ハ平民歎願の事件ありて大樹の轎子不接し其身邊不昵し訟書を奉呈せざる者ハ磔刑不行ふの例近古下總州佐倉の農民惣五郎の嚴罰を以て亞細亞通弊の慘政を看る不足れり

支那帝常不闔州の禮樂刑伐を己れが隨意不行  
ひ其大臣宰相と雖も意慮不適ハざりといハ直  
小獄不下一或ハ死ニ處スルコト歩卒蒼生不殊  
ふるコトホ一然れども時としてハ其大臣十人  
餘を選て闔州の政令及び外國へ通信等のこ  
とを掌握せしむることあり  
政令制度一種の亞細亞風にして一定の規度  
ありことホ一と雖も間々其祖先堯舜の遺法  
不則り又孔聖の謨訓ホ本据一種適宜の政度  
をあはあり但一兵馬生殺の權皆皇帝の掌握

中ホありて決して是を其臣下ホ委任せずと  
雖も方今の帝の如き幼冲あるホ於宰相大  
臣の保輔も又無可り或近世加ふるホ歐  
羅巴の學風を修め彼の教法を容るるを要す  
支那も又昔日の支那ホあつたれば輕侮忽略  
小看做可りたぎ  
地理總説  
支那の全ク本部とせり所ハ北西と蒙古の塚々  
萬里長城を限り西南と西藏緬甸暹羅安南と  
塚一又東南東北と海濱に至る迄の間あり是則

ち古來より中華と稱する所にして堯舜以來歴  
 代の帝王皆茲に於て興廢存亡せし者あり  
 萬里の長城を往古秦の始皇韃靼地方の敵國  
 より侵入を防ぐが為と絶大の土功を起し造  
 築せし所にして其東ハ遼東山海關の海濱と  
 り起り西ハ嘉峪關と達し長さ五百十數里又  
 連亘し其間山川を横斷して高きハ直立五十  
 丈の山頂と達し或ハ下て深谷を亘り城壁の  
 高さ二丈五尺厚さ一丈五尺其外面も皆四角  
 あり煉石磚壘ナリ瓦を疊て之を建築し内部ハ

土を以て充塞す上  
 ハ凸凹形の胸壁あり  
 又壁中弓形の穴道及  
 び小門等を設け長さ長  
 六十間毎に堡塞を備城  
 へ要害の地も塞壁をの  
 二重或ハ三重又築造圖  
 寸實に二千餘年前の  
 遺物と雖ども現今尚  
 壊敗すし不至らむ依



然として存せり  
今此本部の土地を十八省に分て一省毎に省城  
を置き以て之を屬する多くの府城を管轄せし  
む府の下に多く縣ありて段々政治を施とせ  
り先其十八省を數ふる小北より南へ海岸に添  
ふたの部は直隸山東江蘇浙江福建廣東あり又  
中部は山西陝西河南安徽江西湖南貴州廣西ふ  
り其西部は甘肅四川雲南あり此十八省を合せ  
て之を日本三十六丁の壹里四方一坪に割り二  
十八万五千四百坪あり凡そ日本の十双倍あり

と云ふ此外に又北に魯西に國界に至り滿州よ  
り蒙古鞏鞏の國々西に烏魯木齊伊犁ザンガリ  
ヤ天山南北戈壁の地方葉爾羌カスガル前藏後  
藏の諸國東に臺灣の島々及び其管轄内の  
地あり猶此外に又暹羅安南朝鮮等の屬國あり  
其南方は低く國の中央より東南に高山多し平  
地多く地味も宜く米穀茶生糸綿其外産物多し  
西南に山嶽連あり聳へ其間大小の湖川あり  
て水掛り能き不依り水田多くして稻を種る者  
最も多しと云へり

十八省 直隸 大沽 堡 硿 天津  
 ○直隸とい吏部 北 京 禮部 刑部 工部 等 の諸部  
 直ち小隸 の 義 小して隸 の 賤 稱 小 て其下  
 知小屬 一 着 をり 故 小京畿 を 指 して直隸 と 呼  
 ぶ此稱 古 くの南京畿 内 小もあり抑直隸 省 北  
 京の西南 小 方り總督保定府 より 京師 小 至る三  
 百三十里 但 支 那 總轄 する 所十府七廳 十二 州 八  
 十七縣 人口 三百四十萬零 二千 人 該地 北 東 の盛  
 京界 小 至り北 の 内蒙 古 小接 し 西 の 山西 界 南 の  
 山東 界 東南 の 海 小 達 せ り且山東 の 北 小 續 き 朝

鮮と支那 の 入海 を 經 て直ち 小 天津河口 小 接 を  
 るを以て 大 小運載 の 便利 し 且天津 より 北京  
 へ日本 道 程三十里 餘 り此間 北 河 と 云へり川 あ  
 りて小舟 を 通 ぎ總 て 其寒地 を 以て 秋 十月  
 春三四月 頃 ぐ海船 の 往來 稀 あり保定府  
 の下承德 永 平 河間 天津 正定 順德 廣平 宣化 大名  
 等の九府 あり  
 此北河 の 口唇 小 巨大 の 堡砦 あり 建築 の 位置  
 河 口 より上 凡 そ六七里 英 の間 河 の両側 に  
 浴 ふ 沙地 に 在 て 河 の 流 き 極 め て迂回 し 大



約一里英の間ハタンコーより殆んど正南  
 流更ニ又一里英間ハ前岸ニあり大沽村ニ  
 傍ルテ東ニ流キ此地より直ニ北ニ向ヒ一里  
 英半の間北ニ流れ遂ニ南東ニ折レ海ニ入り  
 而テローヴェルノルスフォルド海より大  
 凡そ一里英を隔テ一地即チ河水の南東ニ向  
 ヒ流過ル所ニ在テアツペルノルスフォル  
 ド堡ハ同處ニ於テ一層上流の地ニ在リ而テ  
 又此堡塔ニ對シアツペルモストサウスフォ  
 ルドあり河の全流ニ臨ミ又漸ニ下テ其南岸

日巨大堅固の堡塔あり該所ハ千八百五十九  
 年英國アドミラル官ホーブ名あり者僅ラ  
 の兵を以テ清軍と交戦シ大ハニ剛勇の英兵  
 を損傷セシグレートサウスフォルト堡  
 テ此下流ニ當リ海濱を去リ遠クハ又第五  
 の堡塔あり以テ其終リト以テ此諸堡塔  
 建築の造方ハ皆同一の式を用ヒ其海を前面  
 ニ受ク處ハ多ク兵器を備ヘテ厚キ外  
 柵と共に堅固の堡壁あり且各砲の前面ニハ  
 陰廠と共に陰砲臺を設ケ又アツペルノルス

フォールド名 及び第五「フォールド」の各高臺一  
 箇所第二「フォールド」の二箇所「グレイト」サウ  
 スルン「フォールド」名 三箇所ありて各口徑  
 の大なる砲を備へ其後面より砲を置き且牆  
 壁の類を以て圍繞せし切斷壁を築き以て其  
 後衛とせし且高臺の平地に直立する大凡三  
 十フット一尺の四三九我其頂に達せり斜  
 面路を用ひ又各堡塔の壁は皆巨大の材木を  
 用ひ之を編む或ハ麻を以てし或ハ藁繩を  
 以てし塗る泥を用申又外柵に在る陰砲

一以て匿蔽せり所謂支那大沽の堡塔として有  
 名の砲臺則ち之あり  
 大沽村の其地平坦にして河口通舟の水路を  
 認め難しと雖其碇泊場内外二箇所あり此近傍  
 小二村落あり東沽西沽と云此邊の沙灘を稱  
 して欄江沙と云ふ潮の模様小因る汽船此欄  
 江沙外に投錨し満潮を俟て越申ることあり  
 然る共久しく滞泊するハ罕あり秋末小至き  
 バ時小河水落て吃水七尺以上の船ハ天津小  
 至る能うざることあり河水及び灣の北濱ハ

大抵十二月九日より結氷を故十一月下旬より來船少あり三月十日を解氷の常期と云大沽より天津に至る里程の概算ハ水路六十七里英陸路四十里英より水流曲折を以て如此の差あり天津に登る水路の最も通過し難き所の同府より下流凡そ二十里英不在り北河に登る船舶多く此に至りて淺瀬に乘せざるごと毎回これあり但し其報天津に達せれば通例同府より小舟下り來りて旅客を乗せ去る故小久しく滞船の患ひあり

大沽と天津との半途に葛沽と稱する繁華の邑あり此地南方諸省の唐船輻湊の地にして七月下旬より十月中旬まで帆樯林立を黄河及び鎮江府より天津に至る運河の未だ損ぜざりし片に南方諸省の穀船内地より天津府に來行せしが近來運河所々毀損せしを以て南方の穀類盡し海路より北河を登來せり然るに天津の繁華を致すもの尚此運河あり小因きり恐らくハ上海廣東其他支那内地水運の便を占むるハ天津の右に出る者あり然

まど七六月頃までハ運河水涸きて小舟ハ非  
 ずれば通ぢる事能ハず共黄河水増し西  
 藏解氷の水來りて運河ハ入る事死ハ流水頃  
 小増加し七月小至れば大船も遠く内地ハ入  
 ることを得るあり  
 天津ハ北京の東南三十三里北河の河口小倚り  
 流小沿ひて沂ること二十七里共二日其南岸ハ  
 在る川港あり氣候ハ寒暑共甚しく夏日ハ寒  
 温儀百六度小達ること有る冬月ハ河水常小  
 堅氷を結び二月小至り猶消せざ現今人口四十

万ありて繁盛あり都會  
 ありども市街概略汗穢  
 あり所多し該港ハ西洋  
 紀元千八百六十年より  
 英國と通商の爲之を開  
 き次第小各國の商船輻  
 輳と雖貿易甚ど盛大  
 小至らば該地外國人の  
 居留せむ事少し其地  
 を紫竹林と云ふ然其共

天津の圖



民心頑固にして外客を待遇の意疎く前小佛國  
 人を屠殺の事故あり其緊略ハ該府ハ一州  
 六縣を領する其總督府にして運河と北河と合  
 するの所あり人民過半ハ城内に住以外郭あり  
 共ニ人家稠密あり府の周圍ハ方形の城壁あり  
 其睥睨四家形にして四隅ハ櫓あり一面の長サ  
 一里四分の三にして周圍三里共ニ英餘あり城  
 壁ハ市中の惡水を流すを以て炎暑の節穢氣蒸  
 發し甚ど健康ハ害あり市人の傳染病ハ罹りて  
 死者多きハ蓋し之ハ感ぜざる者ハ人乎又痘

瘡の為ハ死者多し近來種痘の法大ハ行  
 のき牛痘を施す者日々多しと云

洋人居留地紫竹林ハ城下より凡二里英の南  
 岸ハあり英人居留地の界より下流六町許の  
 所ハ當り兩岸ハ堅固あり土の砲臺あり内ハ  
 支那海關官吏の家あり又府城より凡二里英  
 許の周圍ハ圓形の胸壁あり洋人呼ビ支那  
 人失策壁と稱ス又天津より北京ハ至る凡三  
 十三里通例通州まで舟行して後ハ車馬を以  
 て以通州より北京までハ十三里共ニ日あり

客舟大小ありて一人乃至四人を乗り湖流の舟の大小ありて舟金七圓より九圓に至る急流あり増益を乞ふ舟行の三月下旬始り十二月上旬終る五六七八の四箇月の暑氣強くなりて更ふ衣を要せざるも九月初旬小至まば夜風寒冷ありと且北京小至る馬車あり定價一日匹馬一輛一圓二馬一輛二圓と又天津より北京小至る陸あり天津を渡りてヤンツン小達しホウシツ小着し而してチヤンキヤーン地名ニ小着し此地ハ英支の古戦

場ふして運河上小架せる板橋の即ち皇城小英軍の進入を防禦せんとして韃兵苦戦して終小大敗を取し處あり北京ハ順天府不在り現今國帝の都城ふして西經二十三度十六分北緯三十九度五十四分氣候ハ夏月暑氣烈しく又八月より冬月小至りて河水堅氷を結ぶ人口繁盛を世小稱するも現今一百万不足らんと云諸書ニ奉ル所ハ二百五十万ト然レ共即今實況確筭該城之を分つて二部ト為りテ其詳細ヲ得タリ南部北部ハ即ち韃靼城

小一して本城あり南部ハ元城外あり一が近時之  
小牆壁を繞り之を支那城と云ふ其本部と稱  
以韃靼城ハ牆壁の高サ平均五丈北面ハ六丈餘  
小及ぶ所あり厚サ平均四丈許り或ハ五丈七丈  
ある所あり又薄くして二丈二尺ある所あり壁  
の外ハ直垂一内面ハ傾斜以壁の前後ハ胸壁  
あり前ハ銃眼ノ砲ヲ設ナリありて睥睨四字形を  
成モ五十乃至六十ヤルド毎ハ大壁脚あり城門  
の左右外面ハ石を以て造り他ハ皆大なる磚塊  
小一して其堅牢あること石の如し中身ハコンク

レ一ト固メ石ヲ煉リと固く涅ぐる土を以て高  
サ十尺許りづゝ交ハ重積して壁上ハ花崗石  
を敷き南の廓ハ城門三箇あり此郭を分て尚  
二部と為り城外の廓ハ甚ど狭少にして其近地  
の人家も亦甚ど稠密あり此二部の本街ハ殊  
小開豁ありて東西ハ通し南北ハ達せと雖支街  
裏坊ハ狹隘ありて委蛇彎曲あり概シ市街ハ平  
坦ありて人馬走馳車轍縱横晴天塵埃を飛し雨  
降泥濘深く行人の進退幾ど窮乏なる不到る本城  
の内ハ二壁ありて三重と以中央ハ皇居あり次

支那軍情 卷之上 三七

ハ宮廷其他官省あり此二箇を総稱して皇城と云此牆外又一地あり即ち御用地あり昔韃靼城俗ニダツタハ獨り韃靼種之ニ居り今ハ稍々他族も之ニ居り分ちて四部と云今ハ蒙古滿州支那回々教徒是あり各部ニ巡査あり邏官と稱以各其部中を守るを職と以而して滿人の若其官職を奉じて過ることある時ハ巡査直ニ鞭を携へ其處不至り人民の不敬を制しと云ふ韃靼部の家屋ハ多クハ私家にして本街梯比多りのハ皆商家あり然き共市街の最も

開熱あり者ハ支那部不在り而して官員諸賢の此不至りて骨董を買ふ幾ど虚日あり是より中夾あり南門の前門ニ帝宮の大門ありて一條の石道此門の下ニ流き支那城を別り所の廣き中道不至り道の左右ハ盡く商店にて土人群集此門より約一里半ハ英南不至り人家漸く密あり以往來の人亦漸く少き不至れり○支那城の中央南門ハ今尚歴然として存せり此道路の左右ハ最大あり瑤垣の圍り地あり即ち左り祭天壇にして右ハ祭地壇あり此地古來天子と

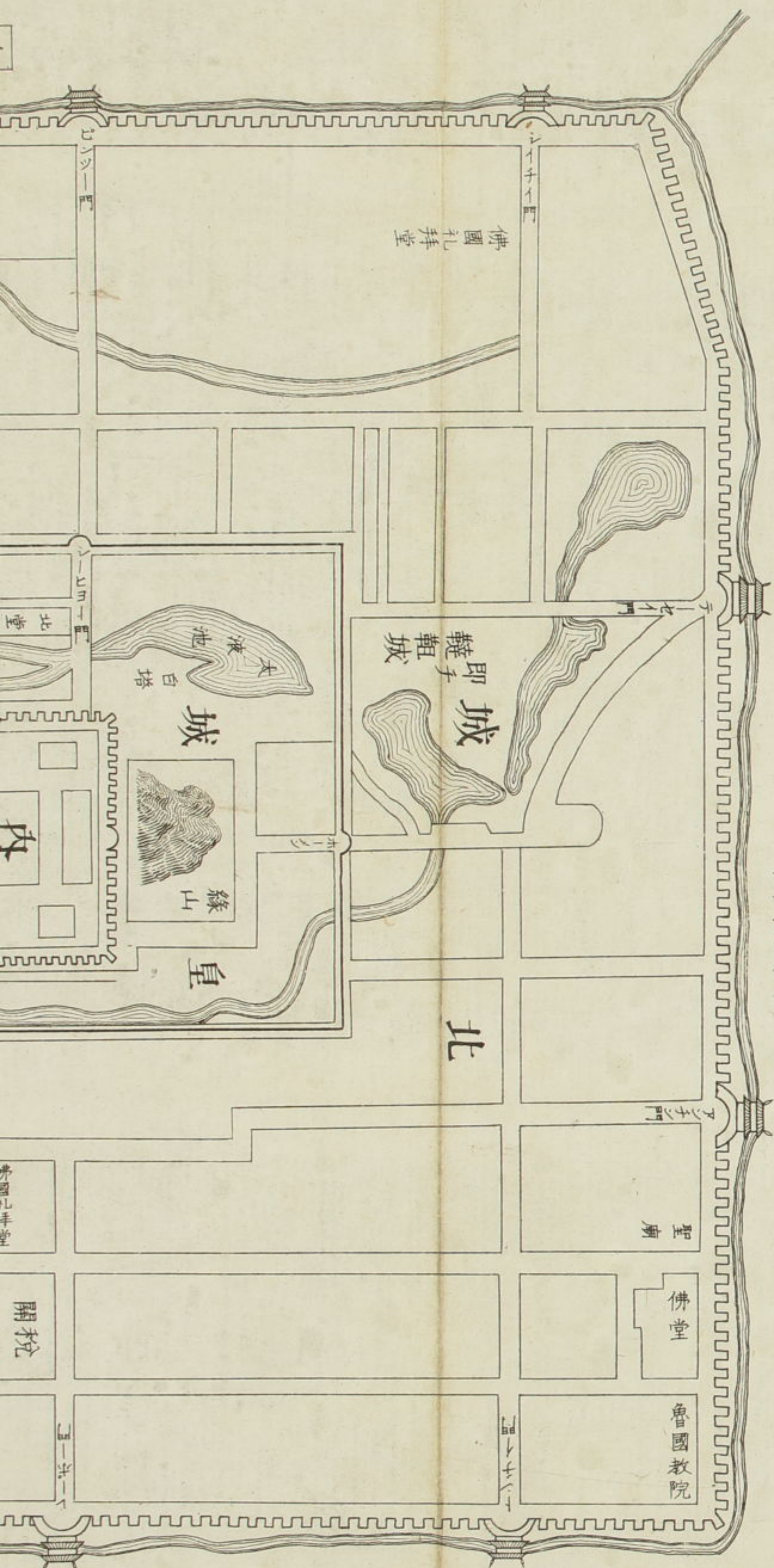


大臣の外曾て到ることを得ざりしと云ふ又孔子の廟ハ二層樓にして最も華美を盡せり支那城第三門の邊り天主教の舊堂あり先不城内不於此教を行ふことを禁せりまより永く此堂ハ風雨の壞蝕不屬一堂上十字架の如きも已不散失して其在る所を知りざりし近時佛蘭西人の助力を得て終不修繕一新十字架を作り之を堂上不安置せりと云○支那鞞韞兩城の塚ハ墻畔不魯西亞使節の旅館あり其地部ニ属ス門口不一個の哈薩克番兵あり○城の

東北外大凡二里英の所不長き堡障あり高サ三十尺不して城墻と相平行一往々開鑿の處ありて大道をして之不通せしむ今此土功を見ろ不野草蔓生一始めて之を見る時ハ實不自然の者不して人工のもの不非ざり不似たり然ま共古老の説を聞く不往古嘗て蒙古部の鞞韞中華不侵入せし時華軍之を防がん為不一野營を築たり其堡障即ち是ありと又京城より北方不通なる所の一道あり直不萬里の長城不達す此地長城を去ること大凡四十里英ありと○京城外二

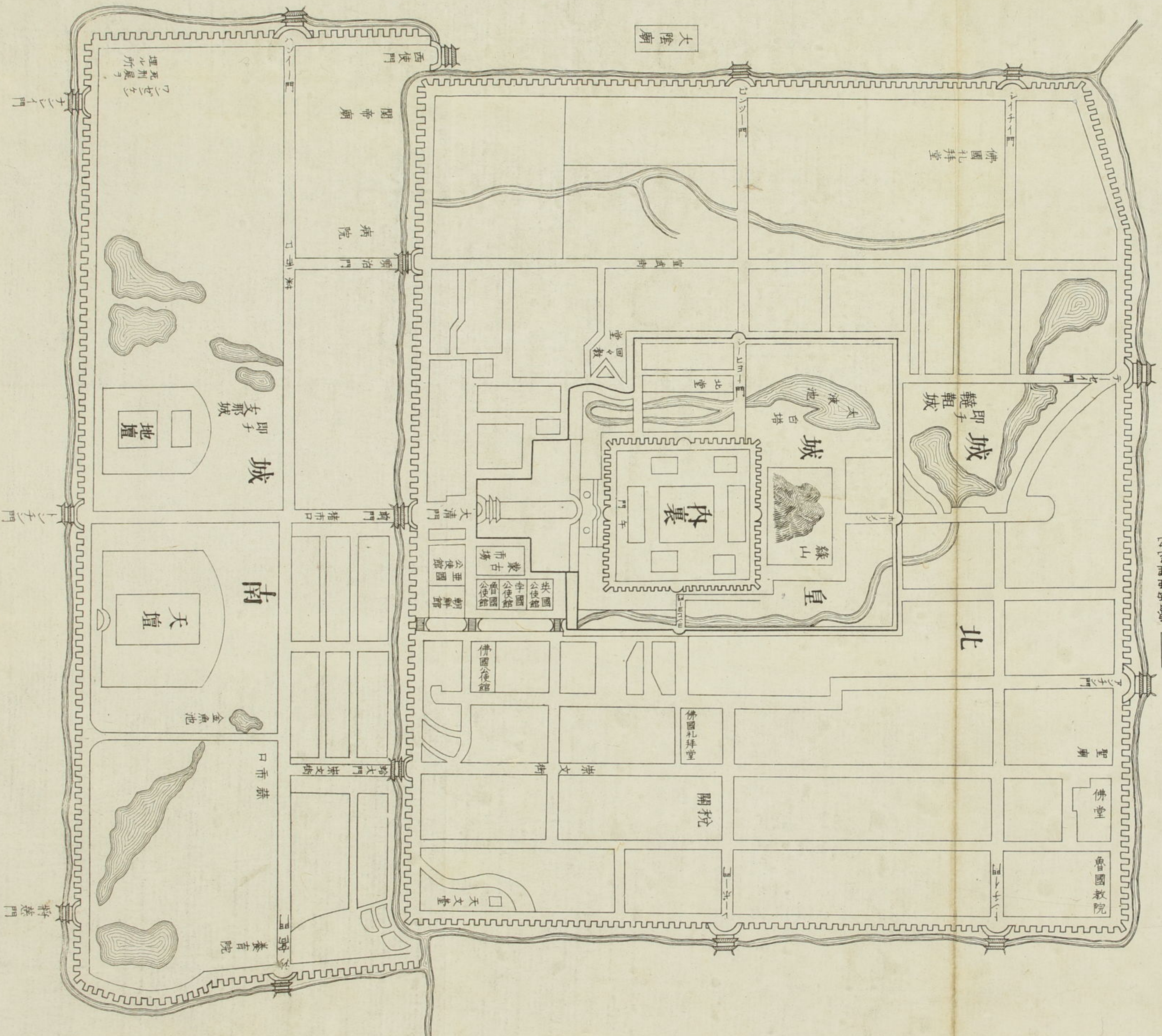
個の城門の北小方て鞆韃人の操兵場あり甚ど  
 廣大小して約祇二里英四方あり此場の外邊不  
 喇嘛教の禮拜堂數屋あり堂々相連接一頗る壯  
 麗あり喇嘛堂の最も蒼華なる所ハ乃チ京城の  
 外小して各壯嚴あり凡そ支那國奉むる所三教  
 の堂塔と雖此堂宇の華嚴ある小ハ實ハ三舎を  
 避可一と抑支那ありて此教小力を盡一殿堂を壯  
 嚴小して而て京城近郊小於て此教を修むるを  
 允せ一ものハ蓋一西藏國を愈々固く版圖小入  
 ありんとする諸帝の策あり可一

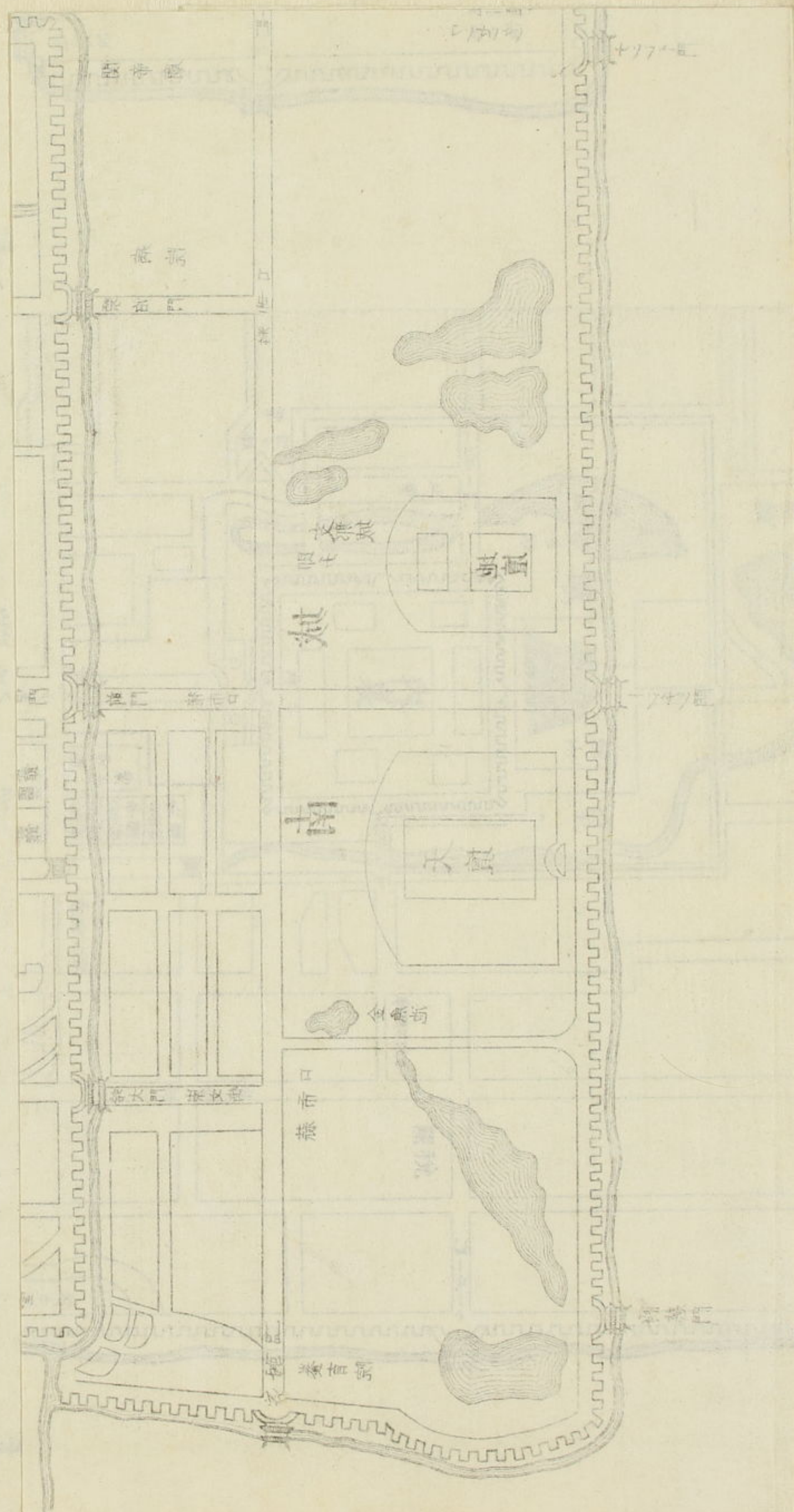
圖之城京北



# 北京之城之圖

清國地圖局編





北京城内ハ人民繁行すること極て盛んあり  
 と雖も貧困の徒最も夥し其窮迫太どき者  
 ハ愍然として目視す不忍びざる者あり冬月  
 酷寒の時ハ至てハ夜間相聚り互ハ重疊一或  
 ハ終夜篝火を焼て其互死を防ぐ惟其病夫老  
 婦ハ時として凍死也土人其屍を取りて橋下  
 堤側中ニ投入を然れども官吏之を詰問せむ  
 又乞食を殺害して弃つること頗る多し是  
 の如き悪風俗あるを以て病者殘廢者の如き  
 ハ皆道路ニ立て錢を往還の人ハ乞ふ又貧者

支那事情  
 卷之上  
 三十一

路傍を徘徊して食を他人に乞ふと此の或は  
腹痛堪へ可うとざる景状をふし或は手足残  
廢して歩行屈伸ふべうとざる状をふし其  
最も猶ある者の故に其女の眼目を損し其母  
自ら之を携へ哀愍の情を切ふして多錢を乞  
ふ者あり又其愛子を官中へ賣んが為し男根  
を剪り棄て之を閹官とふして其身の榮を謀  
る者あり又州内貧者其子を養育せざる事能  
らぬ其穉子を道路に棄つる者あり北京の如  
きは一年捨つる所の兒數大約九千人に下ら

此之を一歳中へ比例すれば毎日二十四人に  
下らぬ間々政廳より人夫を出し車を引て市  
街上を往還し死兒又ハ半死の者を收め其屍  
を他の濕陰地に棄る然れども此州初めて國  
を建ると此の制度に極めて質實敦厚ありと  
見へて上の皇帝貴族より下の萬民奴隸に至  
るまで其親小孝養を盡し長者を尊仰する事  
と他州に多し者ざる所ありと  
北京城内に於てハ轎輿を見ること甚だ罕あり  
多くの皆彈機あり小車を用也是貴權の人の乘

支那事情 卷之七 三十一

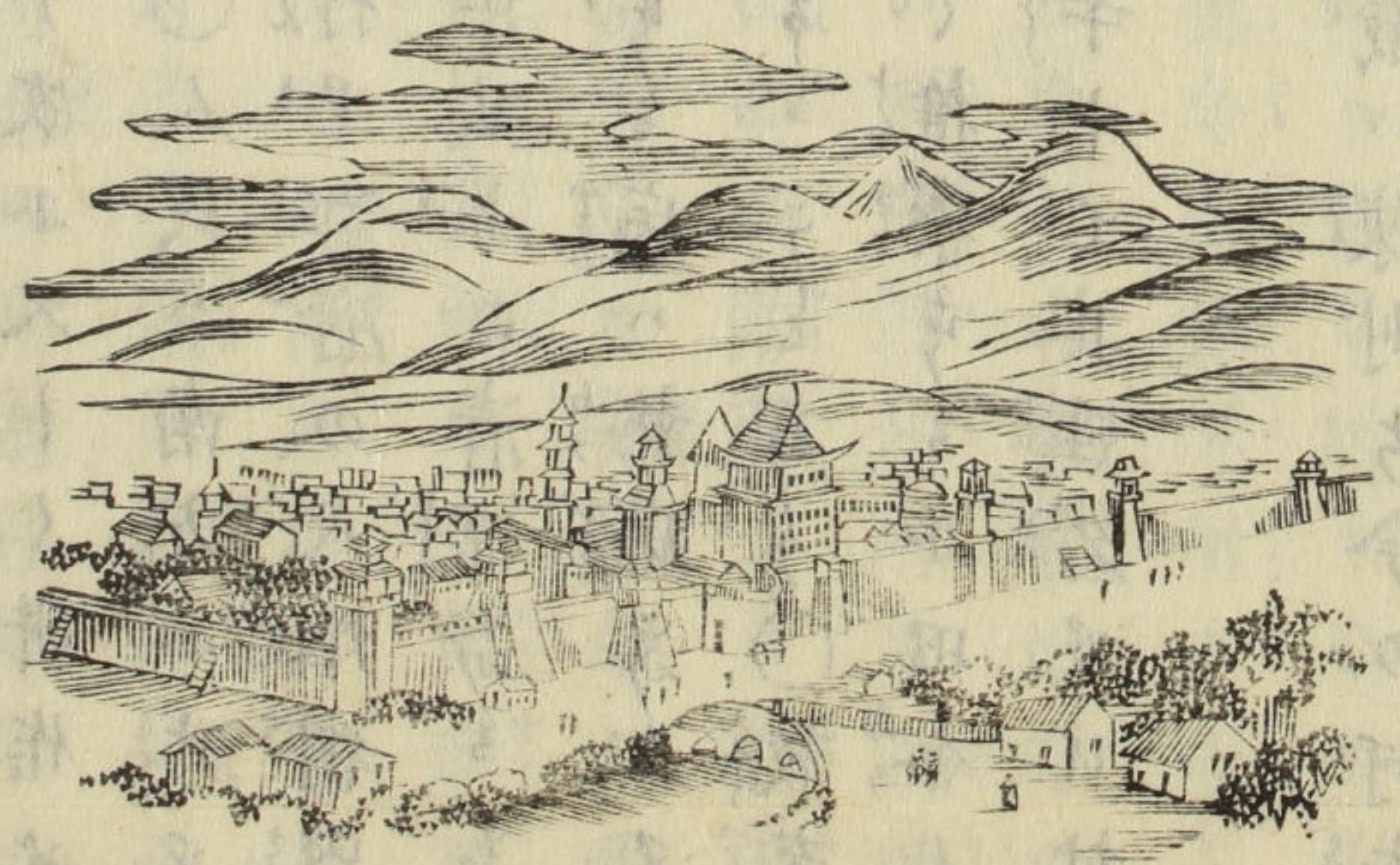
る所あり而して道路平らあり且ツ彈機のみ  
きを以て車中駝兀として頭を撃りこと常あり  
又私家不用申る所の者の車内を枕の如く造り  
車前帳帷を下に○天子京城市街を通行する時  
ハ市民の敬拜を受る勿論あり而して高位の人  
ハ一二の騎者と車の御者とを率めて通行せし  
雖賤民不至りてハ僅小輓車を使ふのこ此輓車  
ハ人の両手を以て轉ぜり但し其狀大ありを以  
て荷物を積むこと亦大あり而して此車或ハ旅  
客を載せりと云○北京城の人ハ好みて能く馬

小騎る甚しく南部の人の短小あり小似む又好  
く驪馬小乗る○此地駱駝を用申るごと殊小多  
しとす頸小馬鈴を着け其緩々歩せり小随つて  
鈴音の響を送り而して其手綱の長きこと外國  
人之を看て驚るざるものあり背上兩降の間小  
駝鞍を置き腹部小二條の腹帯を帯しめ鼻の頭  
小一環を貫き之ハ一條の索を着け以て牽かる  
あり○土地ハ豊饒小して食料諸品を生ずる  
こと多し又此地小於てハ南方小比多きハ肉を  
食する者甚ど多し而して豊肌新鮮なる羊股肉

店小懸りポーンド 百六十一 毎小價僅小ニペン  
 ス半ちりあり 但し牛ハ人の勞を助るを以て  
 順天府内小之を屠るを禁下たる舊法あり然き  
 ど近郊小出まば更小此法ホ一牛肉の價ホ  
 ド毎小ニヘンスあり ○石炭ハサンキヤンチン  
 山小産此山ハ北京を距ること三十マイルの  
 所小在且駱駝小負りて之を都下小送ると云  
 ○窓戸小用申る硝子板及ヒ總て玻璃製の器物  
 ハ廣東より輸入凡窓戸小硝子板を用申る者  
 ハ南方より多る共只富家のニあり ○家屋建

築小用申る木材ハ多く  
 松樹小して之を産する  
 森林も亦北京を距ること  
 と遠くは及此森林小北  
 て木炭を製すること夥  
 多あり家具小用可きの  
 良材ハ南支那及ヒ海峽  
 より廻りて輸入す○廣  
 野の田土ハ縦横溝塹を  
 穿ちて境界を分ち溜澱

北京の図



の粘土膏腴にして豊饒あり故小久しく耕作せ  
 ざる地を見ること稀あり○人民は南方より北  
 まで較ば貧しく衣服穢く村里都府の人烟稠密  
 あり土人水を好まざる共風土の清凉あるを  
 以て皆健康あり多く流行する病は熱病あり又  
 時小暴瀉病及び痘瘡行りることあり○教育  
 の行りまざるは殊小甚しく推察する小田舎人  
 二十人の内小必一人は辛ドて其姓名及び村  
 名を記し得る者ありん歎  
 支那歴代の帝都を考ふ伏羲は陳則ち今の河南

陳州府あり神農の同地或は曲阜則ち今の山  
 東兗州府あり黄帝の涿鹿今直隸涿州小あり  
 少昊は曲阜上顓頊は帝丘今の山東曹州府の  
 濮州是あり帝嚳は亳今の河南河北府の偃師  
 縣あり唐堯は平陽今の山西平陽府あり虞舜  
 は蒲阪今山西蒲州府之あり夏は安邑今山西  
 平陽府小あり商は亳上周は豊鎬今の陝西の  
 西安府あり東周は洛邑今の河南の河内府ふ  
 り秦は咸陽今陝西西安府あり漢は洛陽後ふ  
 長安小移す洛陽今の河南の河南府小して



長安ハ河北ハあり又東漢ハ洛陽三國の魏ハ  
 鄴則チ今の河南彰德府の臨漳縣後洛の地ハ  
 移セリ吳ハ建業今の江南江寧府あり初ハ湖  
 北の武昌府を都トシ蜀ハ成都即チ四川の成都  
 あり西晋ハ洛陽東晋ハ建業又宋齊梁陳の四  
 朝ハ俱ハ建業ハ都トシ隋ハ長安ハ建て後ハ洛  
 陽ハ移シ唐ハ長安ハ建て宋ハ汴ハ建シ汴ハ今  
 の河南開封府あり南宗ハ浙江ハ移シ遼金元明  
 ハ均ハ今の京師順天府ハ一テ遼ハ折津府  
 と云ヒ金ハ大興府と改メ元ハ大都路と稱

一明ハ順天府トシ大明初の都ハ南京應天府  
 小立川今の江南江寧府之あり清朝も又都を  
 順天府不定む今の京師ト復明の代の北京あり  
 ○山東西ハ北京河南ハ至リ南ハ南京ハ抵リ東  
 北ハ皆海ハ臨メリ所屬大小の城地凡一百あり  
 其府城を濟南ト云其餘泰安武定兗州沂州曹州  
 東昌青州登州萊州都て十府十二州九十六縣濟  
 南ハ京師を去ること八百里此地三方海ハ臨ミ  
 多くの物産ありて頗る豊饒の地と稱也  
 ○江蘇ハ山東の南ハあり西ハ河南界ハ至リ西

南<sup>南</sup>安<sup>安</sup>徽<sup>徽</sup>界<sup>界</sup>東<sup>東</sup>南<sup>南</sup>浙<sup>浙</sup>江<sup>江</sup>界<sup>界</sup>東<sup>東</sup>ハ海<sup>海</sup>小<sup>小</sup>至<sup>至</sup>る總<sup>總</sup>督<sup>督</sup>江<sup>江</sup>寧<sup>寧</sup>府<sup>府</sup>  
 ハ京<sup>京</sup>師<sup>師</sup>を去<sup>去</sup>る二<sup>二</sup>千<sup>千</sup>四<sup>四</sup>百<sup>百</sup>四<sup>四</sup>十<sup>十</sup>五<sup>五</sup>里<sup>里</sup>其<sup>其</sup>下<sup>下</sup>蘓<sup>蘓</sup>州<sup>州</sup>松<sup>松</sup>江<sup>江</sup>  
 常<sup>常</sup>州<sup>州</sup>鎮<sup>鎮</sup>江<sup>江</sup>淮<sup>淮</sup>安<sup>安</sup>揚<sup>揚</sup>州<sup>州</sup>徐<sup>徐</sup>州<sup>州</sup>總<sup>總</sup>て八<sup>八</sup>府<sup>府</sup>三<sup>三</sup>廳<sup>廳</sup>二<sup>二</sup>州<sup>州</sup>五<sup>五</sup>十<sup>十</sup>  
 三<sup>三</sup>縣<sup>縣</sup>直<sup>直</sup>隸<sup>隸</sup>三<sup>三</sup>州<sup>州</sup>八<sup>八</sup>縣<sup>縣</sup>小<sup>小</sup>て人<sup>人</sup>口<sup>口</sup>二<sup>二</sup>千<sup>千</sup>八<sup>八</sup>百<sup>百</sup>八<sup>八</sup>十<sup>十</sup>五<sup>五</sup>  
 萬<sup>萬</sup>三<sup>三</sup>千<sup>千</sup>七<sup>七</sup>百<sup>百</sup>九<sup>九</sup>十<sup>十</sup>八<sup>八</sup>人<sup>人</sup>往<sup>往</sup>古<sup>古</sup>ハ江<sup>江</sup>南<sup>南</sup>と云<sup>云</sup>へり  
 省<sup>省</sup>口<sup>口</sup>世<sup>世</sup>界<sup>界</sup>有<sup>有</sup>名<sup>名</sup>の二<sup>二</sup>大<sup>大</sup>河<sup>河</sup>あ<sup>あ</sup>り一<sup>一</sup>ハ黃<sup>黃</sup>河<sup>河</sup>其<sup>其</sup>水<sup>水</sup>源<sup>源</sup>  
 青<sup>青</sup>海<sup>海</sup>より發<sup>發</sup>し内<sup>内</sup>蒙<sup>蒙</sup>古<sup>古</sup>小<sup>小</sup>入<sup>入</sup>り長<sup>長</sup>城<sup>城</sup>を凌<sup>凌</sup>ぎて陝<sup>陝</sup>  
 西<sup>西</sup>山<sup>山</sup>西<sup>西</sup>の界<sup>界</sup>間<sup>間</sup>を經<sup>經</sup>河<sup>河</sup>南<sup>南</sup>小<sup>小</sup>出<sup>出</sup>で江<sup>江</sup>蘇<sup>蘇</sup>小<sup>小</sup>流<sup>流</sup>れ而<sup>而</sup>  
 して黃<sup>黃</sup>海<sup>海</sup>小<sup>小</sup>注<sup>注</sup>ぐ其<sup>其</sup>長<sup>長</sup>さ日<sup>日</sup>本<sup>本</sup>里<sup>里</sup>數<sup>數</sup>一<sup>一</sup>千<sup>千</sup>六<sup>六</sup>十<sup>十</sup>餘<sup>餘</sup>  
 里<sup>里</sup>一<sup>一</sup>ハ洋<sup>洋</sup>子<sup>子</sup>江<sup>江</sup>其<sup>其</sup>水<sup>水</sup>原<sup>原</sup>崑<sup>崑</sup>崙<sup>崙</sup>山<sup>山</sup>より起<sup>起</sup>り雲<sup>雲</sup>南<sup>南</sup>四<sup>四</sup>

川<sup>川</sup>を經<sup>經</sup>て湖<sup>湖</sup>北<sup>北</sup>湖<sup>湖</sup>南<sup>南</sup>江<sup>江</sup>西<sup>西</sup>小<sup>小</sup>至<sup>至</sup>り安<sup>安</sup>徽<sup>徽</sup>の中<sup>中</sup>心<sup>心</sup>を  
 貫<sup>貫</sup>き江<sup>江</sup>蘇<sup>蘇</sup>小<sup>小</sup>出<sup>出</sup>て黃<sup>黃</sup>海<sup>海</sup>小<sup>小</sup>下<sup>下</sup>流<sup>流</sup>其<sup>其</sup>長<sup>長</sup>さ一<sup>一</sup>千<sup>千</sup>三  
 百<sup>百</sup>十<sup>十</sup>四<sup>四</sup>里<sup>里</sup>亞<sup>亞</sup>細<sup>細</sup>亞<sup>亞</sup>洲<sup>洲</sup>中<sup>中</sup>第<sup>第</sup>一<sup>一</sup>の大<sup>大</sup>川<sup>川</sup>あり又<sup>又</sup>全<sup>全</sup>國<sup>國</sup>  
 中<sup>中</sup>多<sup>多</sup>く溝<sup>溝</sup>渠<sup>渠</sup>を穿<sup>穿</sup>開<sup>開</sup>して運<sup>運</sup>輸<sup>輸</sup>を利<sup>利</sup>其<sup>其</sup>中<sup>中</sup>大<sup>大</sup>多<sup>多</sup>  
 者<sup>者</sup>運<sup>運</sup>河<sup>河</sup>と名<sup>名</sup>く天<sup>天</sup>津<sup>津</sup>より平<sup>平</sup>湖<sup>湖</sup>小<sup>小</sup>達<sup>達</sup>し長<sup>長</sup>さ二  
 百<sup>百</sup>六<sup>六</sup>十<sup>十</sup>餘<sup>餘</sup>里<sup>里</sup>小<sup>小</sup>て其<sup>其</sup>間<sup>間</sup>黃<sup>黃</sup>河<sup>河</sup>と揚<sup>揚</sup>子<sup>子</sup>江<sup>江</sup>とを貫<sup>貫</sup>  
 流<sup>流</sup>其<sup>其</sup>土<sup>土</sup>功<sup>功</sup>往<sup>往</sup>古<sup>古</sup>隋<sup>隋</sup>代<sup>代</sup>の帝<sup>帝</sup>業<sup>業</sup>小<sup>小</sup>成<sup>成</sup>り又<sup>又</sup>其<sup>其</sup>北<sup>北</sup>部<sup>部</sup>  
 ハ元<sup>元</sup>代<sup>代</sup>小<sup>小</sup>於<sup>於</sup>て之<sup>之</sup>を增<sup>增</sup>鑿<sup>鑿</sup>せりと云<sup>云</sup>  
 南<sup>南</sup>京<sup>京</sup>ハ支<sup>支</sup>那<sup>那</sup>の舊<sup>舊</sup>都<sup>都</sup>小<sup>小</sup>て目<sup>目</sup>今<sup>今</sup>江<sup>江</sup>蘇<sup>蘇</sup>省<sup>省</sup>の中<sup>中</sup>小<sup>小</sup>  
 あり然<sup>然</sup>も北<sup>北</sup>京<sup>京</sup>小<sup>小</sup>對<sup>對</sup>するの<sup>の</sup>大<sup>大</sup>都<sup>都</sup>會<sup>會</sup>小<sup>小</sup>て揚<sup>揚</sup>子<sup>子</sup>

江の南岸小瀕一其江口より日本里程九十四里の處あり北緯三十二度二分西經二十度五十一分外廓の高さ四丈廻り小十五の城門を備へ其周圍七八里あり人口百万或は現今三十餘万と云ふ人家ハ丘陵小彌り造營せり該地近年長髮賊の兵乱小罹り廓内殆んど衰微と雖貿易繁盛一街路清潔佳良の市店殊小多し

鎮江ハ洋子江の河流ニあり河港にして南京を去る二十五里の所あり最も江中咽喉の

地とす因て堅固なる城郭ありて江中出入の諸船并小荷物等を検査し輸出入貨物の税銀を取聚る役所ありて上海より日本程百十四里餘人口十三萬あり該地安徽江西湖南湖北四川等小至る商船必由此所を經過して内地小達す亦上海より九江漢口小往來する郵船碇泊所とす

上海も又同省の中にして松江の西岸南京の東南七十餘里日本小あり人口五十萬小下らす現今支那貿易場の第一小して支那人ハ滬

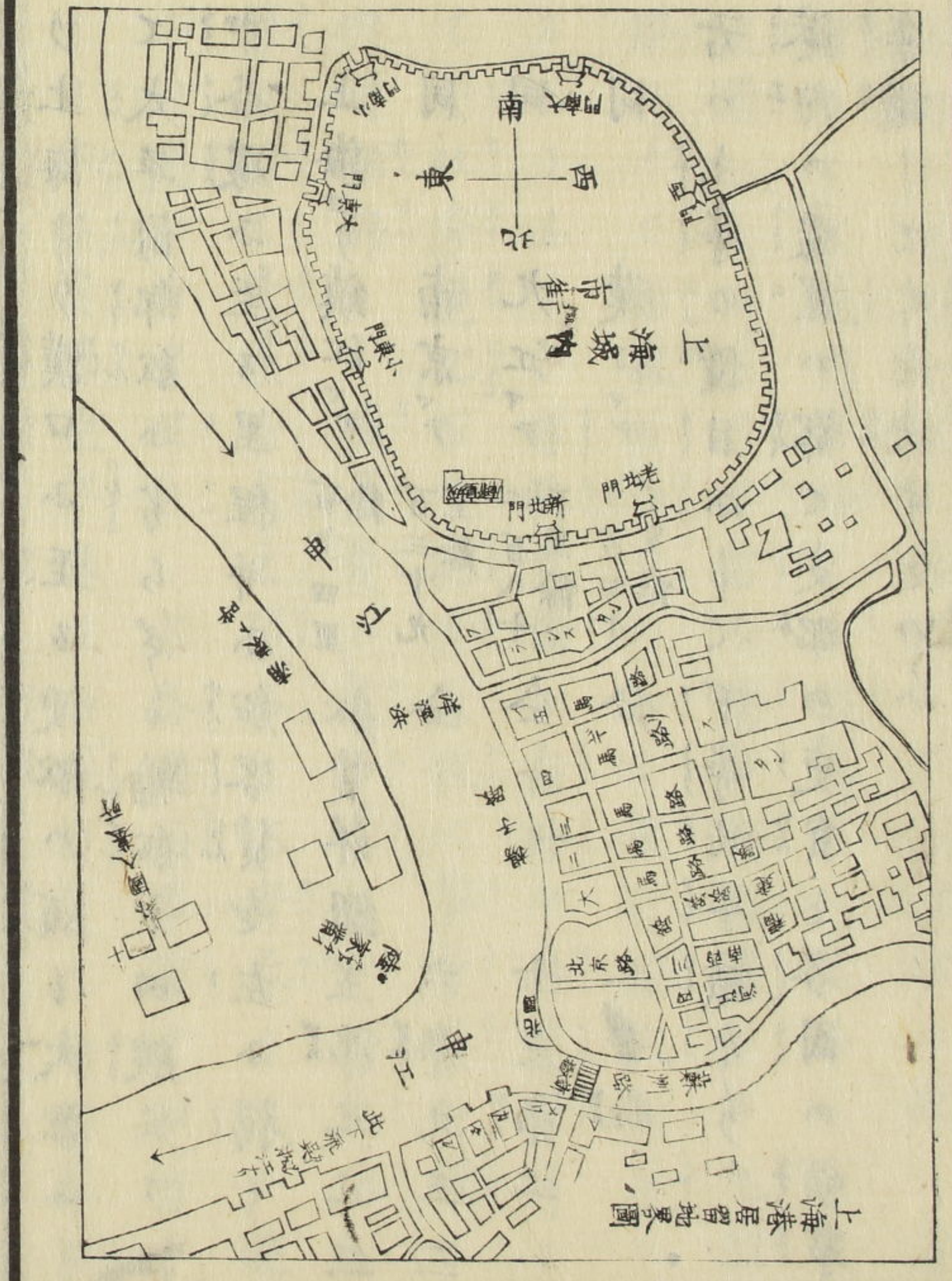
城或ハ上洋埠トリ小我長崎ヨリ日本凡七二  
 百廿五里横濱ヨリ凡六百里氣候ハ夏月百  
 度以上の暑氣小至り冬月も亦寒氣甚一開港  
 の始ハ外國居留の人僅々小廿餘人商家十一  
 軒外國船の入港一年四十餘艘ナリ一内地  
 交易の便利トキ少ナリ近年頃ハ繁盛小至り平  
 日碇泊の外國船二百餘艘内地の商船數千艘  
 輻湊一して萬櫛林立一其繁昌實小目を驚々屯  
 小至る故小内地各處の産貨雲集一して萬物備ざ  
 るナク外國の貨物も亦多クハ此地小運輸一

て内地小轉送モ因て各港往來の汽船郵船等  
 の晝夜出入セザることナク一縣城申江の西  
 岸小ありて周圍三里郭門七ツ城内ハ種々の  
 雜貨店相接一雜沓甚一頗る繁華の風何モ  
 街衢狹隘小一して煩熱堪難一殊小他の小  
 衢ハ臭穢甚一徑過モ小堪ざる所多一外  
 國人居留地ハ縣城東北の郭外ヨリ申江小沿  
 小吳淞江小界ナ之佛蘭西街英吉利街亞墨  
 利加街トリ小西洋商人の家屋四百軒土人の  
 商家一萬二千軒最繁盛の地ハ佛蘭西街英吉

利街の河岸を以て眼目とす居留地ハ都て清  
 潔にして城内の如く臭穢あることなく晝夜  
 巡邏の兵有りて非常を警め街頭處々ハ尾斯  
 燈有りて暗夜も白日の如く夜行燈火を用ひ  
 ることあり○亦新大橋の南畔ハ遊覽所有り  
 て宏壯秀麗凡百の花卉を殖て芬芳榮を競ひ  
 四時聯綿として盛夏爰ハ遊歩すれハ清氣肌を  
 襲ひ恰も炎蒸を忘る嚴冬も亦青春の天ハ遊  
 ぶの思ひをなせり○亦各國領事館十四ヶ所  
 あり日本魯英佛亞普奧以西連葡蘭北瑞那等ナ

り上海より漢口小至る便船ハ頗る大船小  
 て太平海郵船小劣らざる輪船十四艘あり江  
 中各處小至る里程并小船客貨を左小掲ぐ  
 上海ヨリ鎮江マテ 百十四里 船貨洋銀五弗三三三  
 同 南京マテ 百三十九里 全 六弗九三三  
 同 九江マテ 二百八十里 全 十五弗二  
 同 漢口マテ 三百七十里 全 二十弗  
 右ハ上等の價目にして下等此半減なり  
 港内の處置ハ都て支那の吏員と各國の領事  
 集議して之を決すといふ

上海の圖



○浙江の北江蘇界小至り南福建界西南江西北  
 西北安徽界東の海に至り巡撫杭州府の下嘉興  
 湖州寧波紹興台州金華衢州嚴州温州處州等都  
 十一府一廳一州七十六縣杭州府の京師を去  
 る三千二百里人口一千八百九十七萬五千人  
 寧波の鎮海縣の河流を洩ること五里の處小  
 して上海の南六十里あり唐の世小明州と  
 號し安倍の仲磨天の原の詠歌あり是此處也  
 長崎より二百九十六里人口十一萬五千市街  
 華麗にして寺院高塔も亦見る可き者あり絹

布の製造盛なりて其他の産物も亦少うた  
 杭州地方の蠶糸此地に輸出する處の價銀凡  
 一ヶ年四十万弗に下らざるといふ因に洋船の  
 出入多く上海よりの郵船二艘朝夕必だ往來を  
 上海郵船の賃銀 上等 三弗 下等 二弗  
 此地富商最も多く巨船大船を有し内地其他  
 印度に貿易を該地往時富豪五十餘家ありし  
 長毛賊亂後衰へて僅に三十餘家を存と云  
 總て直隸山東江蘇浙江等沿海の諸省に漁鹽  
 の利不富之又茶糸綿五穀其他の物産極めて

多く内河に黄河洋子江運河の便ありて各省  
 の載運小供し外に東海を繞りて天津牛  
 莊上海寧波の通商埠頭あり其自國船舶出入  
 港口多く内外の商賣之に依りて輻輳せり  
 ○福建に東北浙江界に至り西北江西界西南廣  
 東界東南海に至り閩浙總督福建巡撫俱に福州  
 府を治む其下泉州建寧延平汀州興化邵武漳州  
 福寧臺灣凡十府五十八縣直隸二州四縣福州府  
 京師を去り四千八百四十五里該省人口二百  
 三十一萬二千人閩江に福州府の北岸に沿り專

ら内地の運輸不利也又南岸小傍る臺灣の對岸  
小厦門港あり島の大半周回十里島上則ち府  
り港口又別小島あり之を擁蔽して碇泊不便  
香港を距る大凡百二十餘里土地清潔あれど  
も瘠土小して食料の蔬多く臺灣小仰ぐ人口  
二十七万貿易盛なり多く支那人所屬の本國船  
を以て諸方小運輸を其大なる者八百噸小至る  
大凡支那人商家の巨豪なる者此地小多く自ら  
許多の本國船を有して百貨を四方小運輸し印  
度及び東洋諸島小往來する者あり市街華麗な

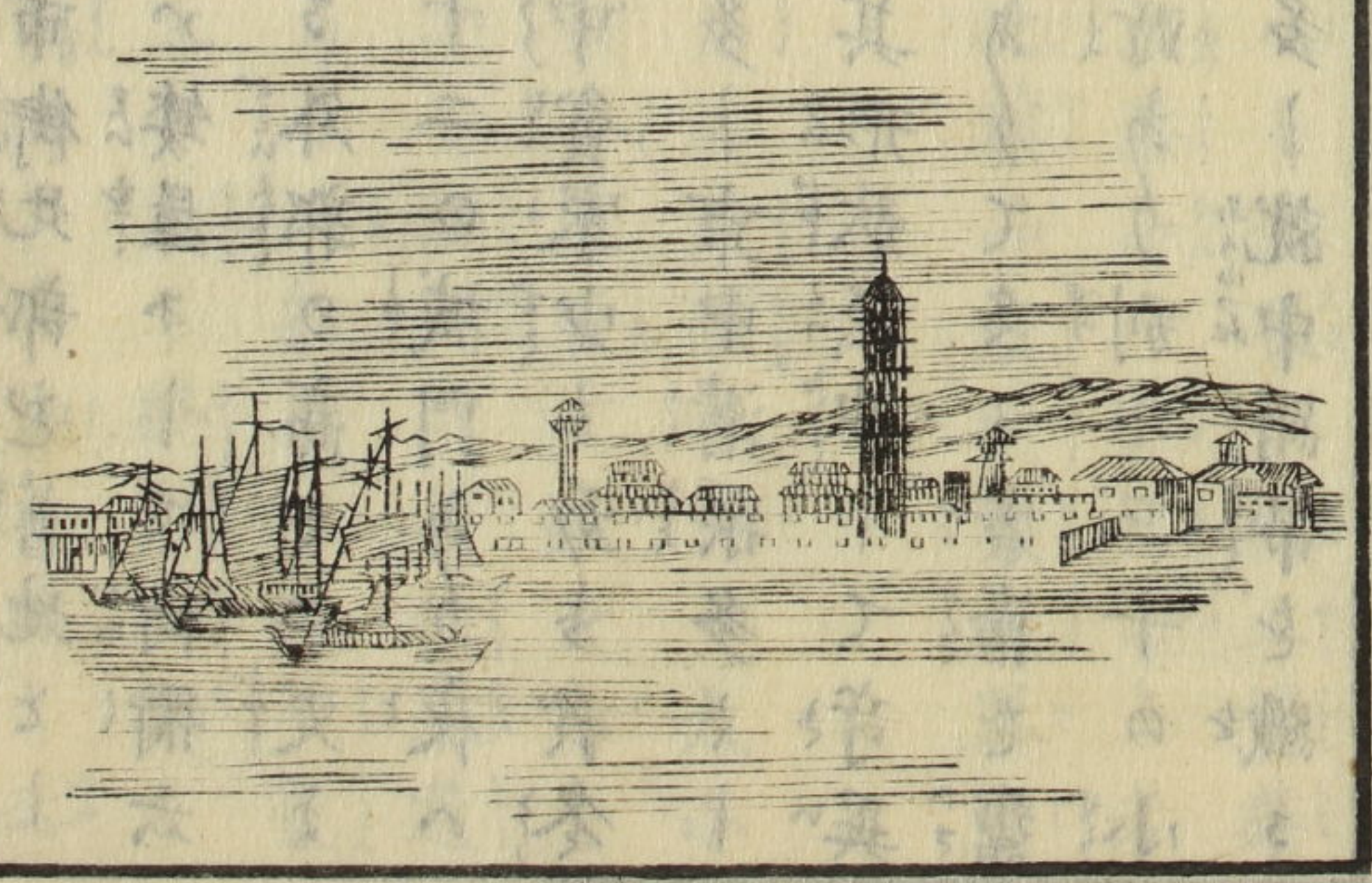
らむと雖も富豪あり國人の巨屋多く邸第園地  
儘見る可き者あり

臺灣ハ二百十四年前鄭成功の據守せし處小  
して福建の東南岸小あり海峡を隔る日本道  
四十餘里小過ぎず其長九十八里幅三十餘  
里山脈南北小亘り全島を中分す其西部ハ支  
那小屬し東部ハ土人小屬して村處々小落を  
成一風俗甚る卑陋あり故小西部を熟蕃と稱  
し東部を生蕃と稱し全島人口二百萬餘其中  
支那人五万小過ぎず氣候暖熱小して草木繁



茂一果物穀類樟腦等を産す  
 廣凍ハ北江西湖南界不至り東北福建界西ハ  
 廣西界より南海小至り兩廣總督巡撫廣州府を  
 治む其下韶州南雄惠州潮州肇慶高州廉州雷州  
 瓊州凡十府七州二廳七十二縣直隸州三直隸廳  
 二八縣其廣州府ハ京師を去る四百九十四里総  
 人口三百六十萬零四千人又海南州瓊州亞瑪港の  
 二島あり土地極めて豊饒小して物産康阜殊小  
 米穀砂糖及び絹帛を出走こ世小名あり廣州  
 府ハ珠江小瀕し其江口の北三十餘里小あり

北緯二十三度氣候温暖  
 小して霜雪稀あり夏月  
 ハ寒温儀大略八十度小  
 降らず六七月の候或ハ廣  
 九十度より百度小至る東  
 人口大凡百万零二三千の  
 其中大略四分の一ハ舟  
 を以て家とす都府ハ珠  
 江の北岸小傍く市街丘  
 陵小連り東北ハ山嶽兀



突として景況頗る佳あり市街北部を舊地として南部を新地とて人家多くハ矮屋にして街衢六百を數ふ此兩部を圍む外郭の高き二丈より四丈小至り大砲を備へ十二の城門あり夜ハ之を鎖して出入を禁じ市中貧家少本かよ冬ハ日ハ失火して焼亡者多し市中溝渠多し舟楫を通し石梁を架し其形狀屈曲して奇異あり者あり又佳麗の肆店ありて多く書籍を鬻ぐ寺院百二十箇學校十四所あり別小三十の小學を設く府内製造の諸品多し就中絹帛を織る

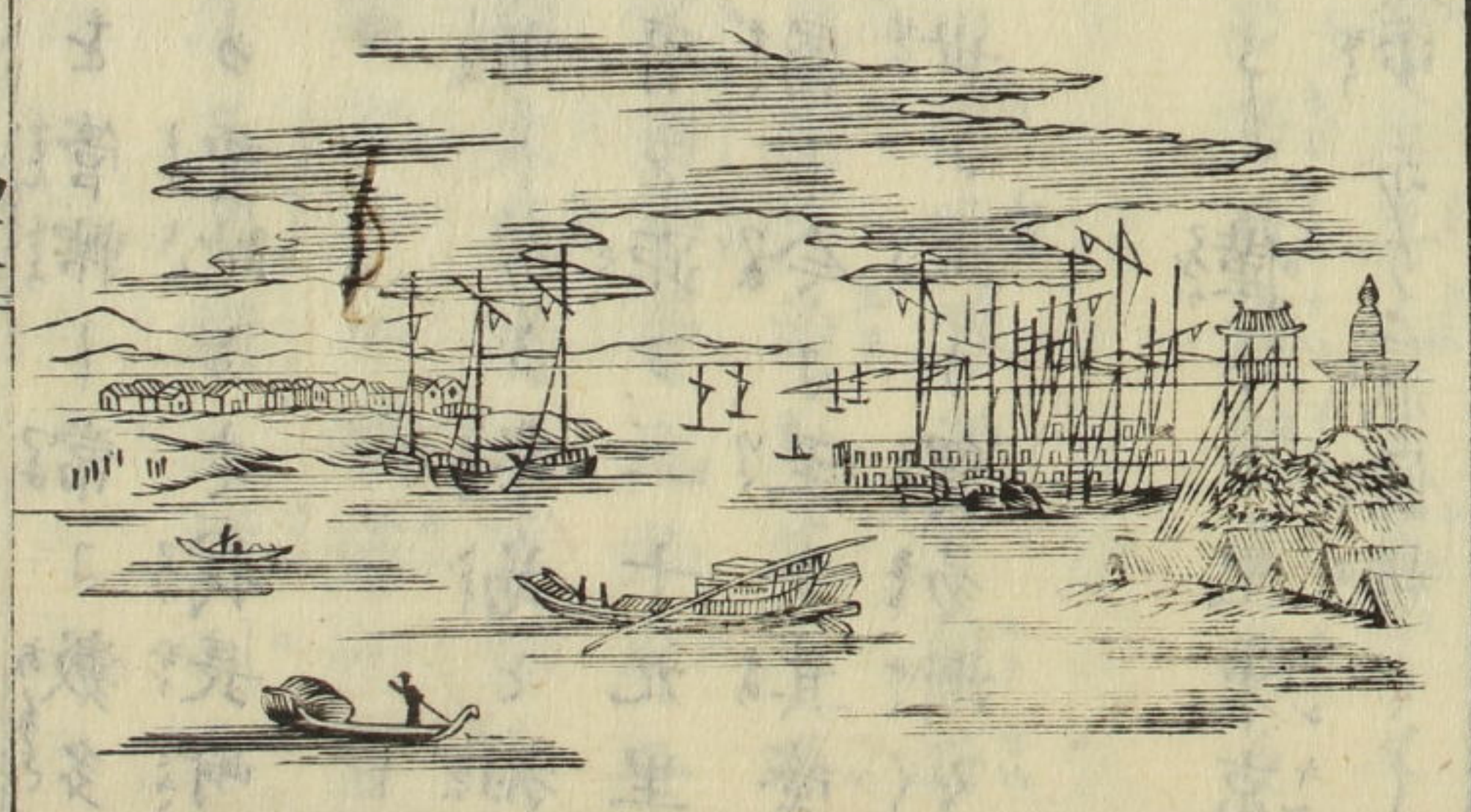
如き常日一萬七千の工人を使役す街上繁華ホして頗る雜沓を極む其出港品の眼目ある者茶生絹絹帛銀陶器砂糖其他藥品食料製造器具等あり

珠江ハ廣東河と號す船居の民頗る多く大小の船舶其數四万小下り各船皆一家をホし萬用備ふざるホし又小舟を編列して往來道路をホし百貨を鬻ぐ店あり此船居の人口幾ど三十萬水上ハ生れ水上ハ長し終身陸地を踏まざりて死する者幾萬たるを知らんと云

此船居の風俗支那各地あり又後印度に感あり抑該江の幅廣くして底深く都府の前面千噸の船を泊す可し然き共入津の洋船の下流六里ワシホアと云ふ地は碇泊し支那の小船を以て貨物を運輸す河流の中島嶼多し處々砲臺を築きて守衛を備ふ今を距る三十年前鴉片の亂に英國の軍艦之を陥り其河口は傍めて香港及び澳門に達す景色殊に愛ま可し

香港の廣東の河口に在る小島にして長サ四

里餘幅三里に滿たむ全島岩石多し北岸に傍て港あり港内廣深にして亞細亞第一の香碇船場とす府を維多港利亞と名く人口十二の萬五千大略支那人を圖り其四分の一は船居に此地鴉片戦争の和議の後永く英領に歸す



支那事情 卷之七 四十五

一英國より鎮臺を置いて之を管轄し常に數多  
 の軍艦を繋ぎ支那海警衛の要地とて我長崎  
 より海路大凡五百里餘  
 澳門ハ廣東の海岸より突出したる半島と相  
 接せり島上ノ府あり廣東府を距る二十九里  
 百十四年前より葡萄呀ノ屬し今に至り其管  
 轄ノ歸す人口五万あり近世ノ至り貿易漸々  
 繁盛あつて  
 瓊州島ハ廣東の海角を離る僅小七里東京  
 灣ノ在り大サ臺灣より差少あり氣候熱マ

○て産物多く又金礦有り内部ハ土人ノ屬して  
 各部落を為し海岸ハ支那の居民海賊を為す  
 者多く風俗甚と惡し  
 ○山西ハ東直隸界小至り南ハ河南界西ハ陝西  
 界北ハ察哈爾小至り巡撫太原府を治む其下平  
 陽蒲州潞安汾州澤州大同寧武朔平等凡九府二  
 廳六十三縣直隸十州二十六縣太原府ハ京師を  
 去る一千三百里總て人口一百九十二萬零一  
 百四十二人此地山高ク川細ク舟楫の便利小

○陝西東ハ山西河南ハ界ハ西ハ甘肅界ハ至リ  
南ハ四川界東南ハ湖北界西北ハ鞏鞏西蕃の諸  
國ハ界ハ其地極メて廣大ナリ巡撫ハ西安府を  
治め其下同州鳳翔漢中延安榆林興安等の統府  
七あり七廳五十八縣直隸五州十五縣其西安府  
ハ京師を去リ二千五百三十五里總テ人口五十  
八萬二千入府城壯麗ナリて巨廣ナリと雖山嶽  
處々小連聳リ頗ル僻陬ハ屬スを以て運載の便  
を要セズ故ニ人煙繁盛ナリ至リ云フ  
○河南ハ南湖北ハ界ハ東南安徽界ハ至リ北ハ

山西界東北直隸山東界東ハ江蘇界西ハ陝西界  
小至リ巡撫開封府を治ム其下陳州歸德彰德衛  
輝懷慶河南南陽汝寧等凡九府六州八十四縣直  
隸四州十五縣開封府ハ京師を去リ一千五百四  
十里人口二百六十一萬四千人土地甚ド饒富小  
して物産殊ニ多シ黄河ハ山東界ニり山西界小  
横斷シ支流縱緯シて舟楫不便ナリ  
○安徽ハ東南浙江ハ界ハ西南江西界ハ至リ西  
湖北界東北ハ江蘇界西北ハ河南界ハ至リ巡  
撫安慶府及び其下徽州寧國池州太平廬州鳳陽

穎州都て八府四州四十二縣直隸五州九縣其安  
 慶府ハ京師を去る二千七百里人口凡一百十四  
 萬八千零二十三人省の中心ハ巢湖あり支流諸  
 省不通ト一ハ江蘇の洪澤湖ハ混入其内地山岳  
 突出し就中湖北ハ隣の地連山峨々として自  
 界を為し洋子江の中流池州府ハ傍ハ河南湖  
 北を經て烏口川ハ分流其土地巨大多ク江と雖  
 運載を要し物産頗る多し  
 ○江西ハ東南福建ハ界し西南廣東界ハ至り東  
 北安徽浙江ハ界し西北湖北界西ハ湖南界ハ至

巡撫南昌府及び其下饒州廣信南康九江建昌  
 撫州臨江吉安瑞州袁州贛州南安總て十三府二  
 廳一州七十三縣直隸一州二縣其南昌府ハ京師  
 を去る三千二百四十五里人口凡六百十二萬七  
 千四百二十五人北部ハ鄱陽湖あり支流八達し  
 て小舟を通じ福建廣東ハ至て稍く船舶を浮上  
 せり  
 九江ハ同省九江府德化縣ハ屬し揚子江を沂  
 ること上海より二百八十三里日本大江の南  
 岸ハある港ありて往時ハ繁昌の都府なりし

長毛賊亂の為に衰へて即今人口四萬小たり  
屯亦近邦饒州の地の磁器の製造支那第一と  
稱する處にして最精巧あり全國小用ゆる處  
の磁器多く此地より出すと云ふ

○湖南北ハ湖北小界一西北ハ四川小至り西ハ  
貴州界西南廣西界東南ハ廣東界東ハ江西界小  
至る巡撫長沙府を治む其下岳州寶慶衡州常德  
辰州沅州永州永順等總て九府三廳三州四十八  
縣直隸四州十六縣其長沙府ハ京師を去る三千  
五百八十五里人口湖北と合計して凡二千四百

十三萬二千四百零八人北部小洞庭湖あり北ハ  
岳州府小傍ひて大江小合一東南長沙府を下り  
て汚水小混淆一分流して廣東江西不入る大湖  
中舟楫恒小絶へ以其周廻佛蘭西國里法小して  
凡四百里ありと云ふ  
○湖北ハ南湖南小界一東南江西小至り東ハ安  
徽界北ハ河南西北陝西小界一西南四川小至る  
湖廣總督湖北巡撫俱小武昌府を治む其下漢陽  
安陸襄陽鄖陽德安黃州荊州宜昌施南等總て十  
府八州五十縣其武昌府ハ京師を去る三千一百

五十五里抑此地ハ往昔湖南と一体にして古名湖廣と號し世ハ此地を稱して支那の穀庫と云最も豐饒の大地にして米穀綿花を産する事甚許多あり

漢口ハ漢陽府ハ屬し往古夏口と稱へし處なり大江を沂ること上海より三百七十四里揚子江の西岸ハありて江中隨一の繁華風流の地なり人口六十萬餘ありて茶葉蠶糸の産夥しく湖南四川陝西各地の咽喉にして内地の商船輻湊し最富饒の地なり此地海濱ハ遠き

故ハ海産の貨物を尊び殊ハ日本の産貨を貴重すとす ○揚子江の中南京より以西ハ都て山水秀媚なるも此地の風景殊ハ勝れて名勝處々ハありて實ハ天下第一樓の名空一可ふいとす亦此地の江中ハ産する鯉魚を楚鯉と稱し其長大ある七八尺より一丈餘小至り且其味の美なる事遙ハ海魚の上ハ出つと ○貴州西ハ雲南ハ界し北ハ四川界小至り東ハ湖南界南ハ廣西界小至り巡撫貴陽府を治む其下。思州。思南。鎮遠。石阡。銅仁。黎平。安順。興義。南龍。都



旬平越。大定遵義等凡十四府十五州三十七縣十七廳。貴陽府ハ京師を去る四千七百四十里。人口總て二百零一萬八千人。

○廣西ハ東南廣東ハ界一東北ハ湖南界ハ至リ北ハ貴州界西ハ雲南界西南ハ安南國界ハ至リ巡撫ハ桂林府を治む其下柳州慶遠思恩泗城平樂梧州潯州南寧太平鎮安等凡十一府十六州四廳四十二縣直隸二州五縣其桂林府京師を去る四千六百四十九里。人口總て三百零八萬一千人。上地富饒ハ一物産多く殊小米穀及バ肉桂を

出ること世ハ名あり人民極めて蕃盛ハ一子諸の工技をふ者凡一百万之を合せて二十萬家と云所造の磁器甚と佳良あり

○甘肅ハ東南陝西及ビ四川ハ界一東北ハ鄂爾多斯阿拉善及ビ喀爾喀托薩克圖汗部ハ至リ西南青海迤西ハ至リ大戈壁と為ル則チ沙漠不毛の地あり西北科布多及ビ伊犁ハ至リ總督蘭州府を治む其下平涼鞏昌慶陽寧化西寧涼州甘州安西鎮西等凡十府七廳八州四十一縣直隸五州十四縣其蘭州府京師を去る四千四里。人口八

十四萬人。黃河ハ長城以外より内蒙古に傍ひて内部を横斷し土爾扈特旗の邊りを経て内地に入る。積石山の麓を繞りて了らば鄂凌海に入らず。談地黃河の外河流ありと雖皆細川にして舟楫の便利に供まざる。

○四川北ハ陝西甘肅界に至り東ハ湖北に界し東南ハ湖南貴州に界し西南雲南に至り西ハ西藏界に至り總督成都府を治め其下寧遠保寧順慶叙州重慶夔州龍安潼川嘉定雅州綏定等凡十二府十二廳十一州八十七縣直隸州八二十五縣

とて成都府京師を去る四千七百十五里人口七百八十一萬三千人此地西南高嶽相列し内部雪山の山脈連亘し間々河流を通ずるも峽阻多く地の廣大に比すれば人民の蕃殖頗あらず然れ共物産又富饒あり

○雲南北ハ四川界東ハ貴州廣西界に至り西北ハ西藏界西ハ怒夷界西南ハ緬甸界南ハ安南界に至り雲貴總督雲南巡撫其雲南府を治む該府の下大理臨南楚雄激江廣南廣西順寧曲靖姚安鶴慶武安元江普洱永昌開化等總て二十一府九

廳三十一州三十五縣と云雲南府と京師を去  
る五千八百九十五里人口三百二十萬零九千人  
此地甚と廣境にして印度部内と接し山岳連亘  
ざるの間河水縦横し流通し土地極く豊饒なり  
て多く金銀銅錫玉石夜光寶石等を産し府城雲  
南の地と又肥沃にして多く諸果を出せと云へ  
り

現今支那事情卷之上了

